

年

2008
まほろん



〔財〕福島県文化振興事業団 ● 福島県文化財センター白河館

報



実技講座「古代の染色にちょうせん」（8月11日）



まほろんイベント「古代の鉄づくり」（11月3日）

年報 2008 の発刊によせて

館 長 藤 本 強

2007 年度はじめの 4 月 14 日には、開館以来の入館者の数が 20 万人を超えました。多くの方々のご支援の賜物と深く感謝しています。

指定管理者制度というなじみのない言葉の下に運営するようになって 2 年が経ちました。外見では大きな変化はないように見えますが、長期にわたってまほろんを運営していく立場に立つと、種々の課題が浮かび上がってきます。5 年、10 年という期間を考慮に入れて運営していかなければならないことも数多くあります。特に貴重な資料の保管という点では運営母体が安定していないと責任の所在が曖昧になります。県民や国民に対し、責任をもって資料を保管し、活用する機関としての位置づけを考える必要があります。

入館者の数は 34,235 人と過去最高を記録した昨年度にほぼ近い数になりましたし、館外利用者の数は 14,442 名と過去最高の数になりました。ホームページのアクセス数も 4 万件を超えています。特筆すべきものは、データベースへのアクセス数が 10 万件を超えたことです。これまで年間 3 万件ほどで推移し、2006 年度にはじめて 4 万件を超えたというのが過去最高の数字であったのが、一挙に 2.5 倍以上になりました。長期間におよぶ地道な営みが成果を見せはじめたということができましよう。

企画展では、まず 4 月～5 月にかけて 2006 年度の 3 月から引き続いた「まほろん春のてんじ 新編陸奥国風土記 卷之五 会津郡・耶麻郡 その二」を開きました。10 月～12 月に指定文化財展「まほろん秋のてんじ ふくしまの重要文化財Ⅴ：古墳時代前期編」を開催しました。2008 年 3 月からは「まほろん春のてんじ 新編陸奥国風土記 卷之六 行方郡」をはじめ、これは 2008 年度に引き継ぎました。前の二つの展示はどちらも 5,000 人を超える方々に見ていただきました。それぞれのふるさとで何があったのかを知るきっかけにいただけたものと思います。

本年度は、まほろんが開館以来手がけてきました製鉄の復元実験で大きな成果が得られました。2003 年と 2005 年に製鉄炉で砂鉄から鉄を作る実験をしてきました。これらの二度の実験では鉄はできたのですが、それは意図した銑鉄ではなく、いずれも鋼ができてしまいました。2007 年度では、何とか銑鉄を作るべく種々の工夫を凝らして実験に臨みました。その結果、ようやく意図した銑鉄を作り出すことができました。製鉄炉の操業作業に 150 名ほどの方々に参加いただきました。準備段階の砂鉄の選別作業、羽口作りの作業にも多くの方々が参加されました。多くの人々の参加と長期間にわたる試行錯誤の結果の成果といえましよう。他の復元研究事業では、いわき市中田横穴出土の馬具の鐙が完成しました。これらの実験を通して多くのことを学ぶことができました。

おでかけまほろんも 20 ヶ所で開催し、800 名近い生徒さんに体験いただきました。県民の方々の中にまほろんの仕事が着実に根付いてきていることを実感しています。

多くの方々に支えられながら、着実に歩み続けたいと考えています。

目次

第1章 まほろんの沿革	1	(2) 展示替え.....	17
1 開館までのあゆみ.....	1	(3) 展示資料の破損とメンテナンス	18
2 開館後のあゆみ.....	1	8 企画展事業	19
第2章 平成19年度の組織と予算	2	(1) まほろん秋のてんじ.....	19
1 組織.....	2	(2) まほろん春のてんじ.....	21
2 予算.....	2	(3) 研究復元事業.....	23
第3章 平成19年度事業の概要	3	9 ボランティア運営事業	25
1 管理運営.....	3	(1) 登録.....	25
(1) 運営協議会.....	3	(2) 活動内容.....	25
(2) 出版物.....	3	(3) 受け入れ体制.....	25
2 資料管理事業.....	4	(4) ボランティア研修.....	25
(1) 収蔵資料.....	4	(5) ボランティアの自主活動.....	26
(2) 資料貸し出し.....	4	第4章 平成19年度入館者統計	27
(3) 写真等掲載承認.....	4	1 入館者数.....	27
(4) 資料閲覧.....	5	2 入館者数の推移.....	28
3 情報発信及び普及事業.....	6	第5章 まほろん施設の概要	29
(1) ホームページによる情報発信...	6	第6章 まほろんの条例・規則	31
(2) データベースによる情報提供...	6	1 福島県文化財センター白河館条例...	31
(3) 研究紀要.....	6	2 福島県文化財センター白河館条例施行規則...	31
(4) まほろん通信.....	6	まほろんの利用案内	32
(5) 館長講演会.....	7		
(6) 文化財講座.....	7		
4 研修事業.....	8		
(1) 研修事業実施の概要.....	8		
(2) 実績.....	8		
(3) 研修実施状況.....	8		
(4) 今後の課題.....	10		
5 体験学習事業.....	11		
(1) 常時体験型.....	11		
(2) 募集型体験メニュー.....	12		
(3) 館外体験学習支援事業.....	13		
(4) ネット授業試行.....	14		
6 まほろんイベント古代の鉄づくり.....	15		
(1) 経緯.....	15		
(2) 砂鉄選別.....	15		
(3) 羽口づくり.....	15		
(4) 製鉄炉操業準備.....	15		
(5) 製鉄炉操業.....	16		
7 常設展事業.....	17		
(1) 構成.....	17		

第1章 まほろんの沿革

1 開館までのあゆみ

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成9年度 基本設計

平成10年度 実施設計・用地取得・造成工事

平成11年度 造成工事・建築工事

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成12年3月

シンボルマーク・ロゴマークの決定

平成12年度

建築工事・環境整備工事・野外展示工事・屋内展示工事

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年度 屋内展示工事

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

2 開館後のあゆみ

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成13年8月5日

開館記念イベント「まるごと体験 まほろん」開催

平成13年8月17日 入館者1万人到達

平成14年1月26日 入館者3万人到達

平成14年7月21日

開館1周年記念イベント「まほろん1周年だよ！ボランティア2002」開催

平成15年7月20日

開館2周年記念イベント「まほろん2周年だよ！ボランティア2003」開催

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成16年7月24日～8月8日

まほろん移動展「新編陸奥国風土記 卷之三 安積郡」郡山市民文化センター開催

平成16年7月25日

開館3周年記念イベント「まほろん3周年だよ！ボランティア2004」開催

平成17年7月18日

開館4周年記念イベント「まほろん4周年だよ！ボランティア2005」開催

平成17年9月4日 入館者15万人到達

平成18年7月15日～7月17日

「おかげさまで5周年！！まほろん感謝祭」開催

平成18年8月5日～9月18日

福島県立博物館移動展「馬と人の年代記～大陸からふくしまへ～」開催

平成19年3月10日～5月13日

平成18年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 卷之五 会津郡・耶麻郡 その二」開催

平成19年3月10日～5月13日

まほろん移動展「新編陸奥国風土記 卷之五 会津郡・耶麻郡 その一」福島県立博物館開催

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成19年10月6日～12月2日

平成19年度まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財Ⅴ 考古資料：古墳時代前期編」開催

平成19年11月2日～11月4日

まほろんイベント「古代の鉄づくり」開催

平成20年1月23日～2月6日

福島県文化振興事業団総力事業「ふくしま発信!!! 古代鉄生産の技術」企画展 福島県文化センター開催

平成20年1月26日～1月27日

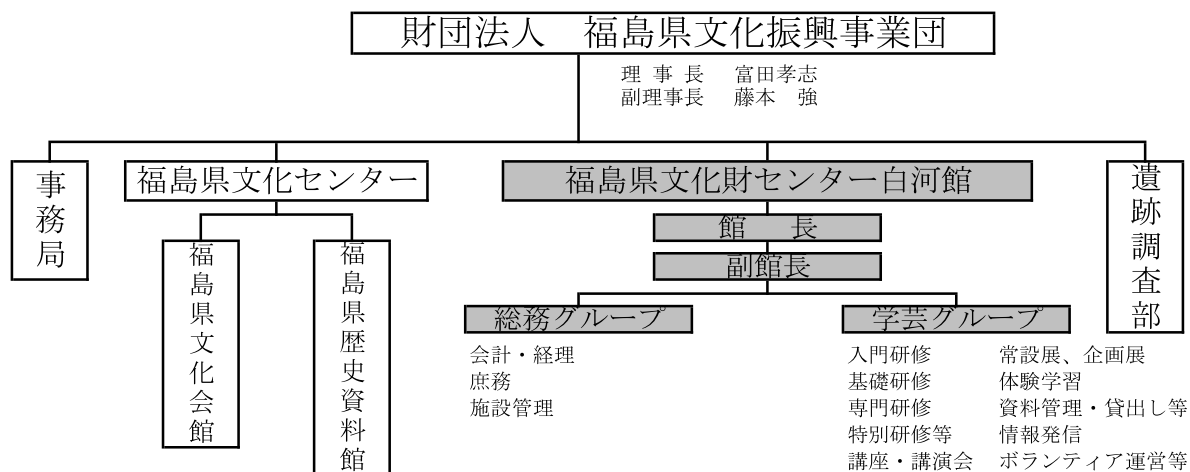
福島県文化振興事業団総力事業「ふくしま発信!!! 古代鉄生産の技術」講演会・シンポジウム・上映会 福島県文化センター開催

平成20年3月15日～5月11日

平成19年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 卷之六 行方郡」開催

第2章 平成19年度の組織と予算

1 組 織



職員名簿

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	藤 本 強	学芸グループ	主任学芸員 山 口 晋
副 館 長	渡 辺 力	学芸グループ	主任学芸員 大河原 勉
総務グループ	課長（兼務） 渡 辺 力	学芸グループ	副主任学芸員 大 波 紀 子
学芸グループ	主 査 鈴 木 幸 夫	学芸グループ	副主任学芸員 丹 治 篤 嘉
学芸グループ	主 事 枝 松 雄一郎	学芸グループ	嘱 託 山 田 めぐみ
学芸グループ	課 長 鈴 鹿 良 一	学芸グループ	アテンダント 佐久間 育 子
学芸グループ	主 幹 芳 賀 英 一	学芸グループ	アテンダント 藤 野 千 恵
学芸グループ	専門学芸員 石 本 弘	学芸グループ	アテンダント 岡 田 百合恵
学芸グループ	専門学芸員 田 中 敏	学芸グループ	アテンダント 八 島 千 夏
学芸グループ	専門学芸員 吉 田 秀 享	学芸グループ	アテンダント 大 戸 若 菜
学芸グループ	専門学芸員 藤 谷 誠	学芸グループ	臨時事務補助員 鈴 木 敏 江
学芸グループ	主任学芸員 佐 藤 悦 夫	学芸グループ	休日等物品販売補助員 吉 田 美智子
学芸グループ	主任学芸員 能登谷 宣 康	学芸グループ	職員総数 24名（定数内16名、内県派遣4名）

2 予 算

一般会計

<収入>

- 指定管理者委託料 252,170,100 円
- 合計 252,170,100 円

<支出>

- 文化財センター白河館管理運営費 254,770,640 円
- 合計 254,770,640 円

特別会計

<収入>

- 事業収入（物品販売収入） 5,332,180 円
- 雑収入 126,835 円
- 合計 5,459,015 円

<支出>

- 事業費 4,418,242 円
- 租税公課費 313,323 円
- 合計 4,731,565 円

第3章 平成19年度事業の概要

1 管理運営

(1) 運営協議会

福島県文化財センター白河館の運営に関し、館長の諮問に応じ、各種事業等の企画実施について審議するもので、委員は学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験者等から6名を委嘱している。

名 簿

岡田茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授（会長）
渡邊一雄	福島県考古学会顧問（副会長）
佐藤正敏	西白河小中学校長連合協議会会長 ・白河市立みさか小学校長
茅野敏英	独立行政法人国立青少年教育振興機構国立那須甲子青少年自然の家所長
山崎京美	いわき短期大学教授
和知 延	白河市文化財保護審議会委員・鹿嶋神社宮司

会 議

第1回運営協議会

日 時 平成19年8月24日（金）

場 所 福島県文化財センター白河館会議室

議 事

① 平成18年度福島県文化財センター白河

館の運営状況について

② 平成19年度福島県文化財センター白河館の運営状況について

③ 平成19年度入館者（中学生以上館内用）アンケート集計結果について

第2回運営協議会

日 時 平成20年2月9日（土）

場 所 福島県文化財センター白河館会議室

議 事

① 平成19年度福島県文化財センター白河館の運営状況について

② 平成20年度福島県文化財センター白河館の事業計画について

③ アンケート調査の結果について

④ その他

(2) 出版物

管理運営事業として、「福島県文化財センター白河館年報2007」を編集し、平成19年度の事業概要をまとめ、平成20年1月31日に発行した。他には、研究成果の報告として「福島県文化財センター白河館研究紀要2007」を平成20年3月31日に発行した。

また、広報誌として「まほろん通信（VOL.24～VOL.27）」を4回（各5,000部）発行した。



定期出版物

2 資料管理事業

(1) 収蔵資料

(箱)

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	合 計
一般収蔵庫	40,152	2,651	825	512	44,140
特別収蔵庫	416				416
合 計	40,568	2,651	825	512	44,556

* 1 一般収蔵庫の収容能力は最大 66,000 箱

* 2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

(2) 資料貸し出し

遺 物

(点)

貸出期間	貸 出 先	貸 出 目 的	資 料 名	数量
20070401～20080331	株式会社日本フットボールヴィレッジ	常設展示	橘葉町美シ森 B 遺跡出土弥生土器	3
20070401～20080331	福島県立博物館	常設展示	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,025
20070401～20080331	須賀川市立博物館	常設展示	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
20070401～20080331	東北電力株式会社原町火力発電所	常設展示	南相馬市島打沢 A 遺跡出土土師器・須恵器・羽口ほか	24
20070401～20080331	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	常設展示	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
20070401～20080331	独立行政法人国立科学博物館	常設展示	飯館村日向南遺跡ほか出土縄文土器	8
20070401～20070518	福島県立博物館	まほろん移動展「新編陸奥国風土記 巻之五 会津郡・耶麻郡 その一」	西会津町塩喰岩陰遺跡出土縄文土器ほか	755
20070401～20080304	福島県立博物館	破損箇所修復及び接合関係修正	玉川村江平遺跡出土横笛	1
20070421～20070713	横浜市歴史博物館	特別展「ヒトが移る、モノが動く—古代の東国にその痕跡を探る—」	玉川村辰巳城遺跡出土須恵器ほか	3
20070710～20071114	福島県立博物館	福島県立博物館・鹿児島県歴史資料センター黎明館共同企画展「樹と竹—列島の文化 北から南から—」	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	2
20070719～20070809	財団法人郡山市文化・学び振興公社	文化財企画展「探してみよう!川辺のむかし」	郡山市徳定 A・B 遺跡出土土師器ほか	12
20070817～20071025	津南町 農と縄文の体験実習館	秋季企画展「火炎土器前夜」	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	8
20070912～20071130	栃木県立なす風土記の丘資料館	企画展「川でつながる縄文人」	石川町七郎内 C 遺跡出土琥珀玉ほか	75
20070917～20071130	狭山池博物館	特別展「国土を拓いた金物たち」	新地町向田 A 遺跡ほか出土銅型・羽口・炉壁・鉄滓	13
20071109～20080118	白河市歴史民俗資料館	企画展「白河の遺跡展」	白河市一里段 A 遺跡出土旧石器	13
20071130～20080206	栃木県立なす風土記の丘資料館	冬休み小中学生向け展示会「子を考古学する」	会津若松市上古田遺跡ほか出土墨書土器	7
20080221～20080314	財団法人郡山市文化・学び振興公社	文化財企画展「アクセサリ—いま・むかし—」	郡山市荒小路遺跡出土土製品ほか	601
20080222～20080331	福島県立博物館	まほろん移動展「考古学から探る古代会津—古墳・飛鳥・奈良・平安時代—」～新編陸奥国風土記巻之五 会津郡・耶麻郡その二より～	会津若松市駒板新田横穴群出土土器・鉄製品・玉類ほか	170
20080327～20080330	独立行政法人国立科学博物館	DNA 分析のための試料採取	西会津町塩喰岩陰遺跡出土人骨	2
			合 計	2,726

模型及びレプリカ

(点)

貸出期間	貸 出 先	貸 出 目 的	資 料 名	数量
20070401～20080304	福島県立博物館	破損箇所修復及び接合関係修正	玉川村江平遺跡出土横笛展示用アクリルケース	1
20070719～20070809	財団法人郡山市文化・学び振興公社	文化財企画展「探してみよう!川辺のむかし」	復元縄文風衣装	2
20070907～20071108	いわき市立美術館	企画展「天冠埴輪、中田装飾横穴…古墳時代のいわき」	中田装飾横穴出土馬具復元品	1
20070917～20071130	狭山池博物館	特別展「国土を拓いた金物たち」	梵鐘復元品・獸脚付容器復元品ほか	8
20070921～20071205	福島県立博物館	当館企画展で借用する資料との交換	会津大塚山古墳出土三角縁神獸鏡復元品	1
20071003～20071209	福井県立歴史博物館	特別展「古代のテクノロジー—継体大王の時代の最新技術—」	古墳時代の馬復元品と京内古墳群出土馬具復元品ほか	6
20071226～20080314	みどり市教育委員会	企画展「みどり市周辺の鉱業遺産—鉄・銅・マンガンの生産と技術—」	まほろんにおける製鉄操業 DVD	1
20080222～20080331	福島県立博物館	まほろん移動展「考古学から探る古代会津—古墳・飛鳥・奈良・平安時代—」～新編陸奥国風土記巻之五 会津郡・耶麻郡その二より～	会津大塚山古墳出土三角縁神獸鏡復元品ほか	3
20080222～20080331	福島県立博物館	当館企画展で借用する資料との交換	真野古墳群出土双魚佩復元品	1
			合 計	24

(3) 写真掲載等承認

(点)

承認日	申 請 者	掲載刊行物等	資 料 名	数量
20070410	山川出版社	『日本史図録』	白河市谷地前 C 遺跡25号住居跡写真ほか	3
20070425	玉川村教育委員会	「玉川村史追録Ⅱ」	玉川村高原遺跡全景写真ほか	33
20070428	御代田町立浅間縄文ミュージアム	企画展「仮面の縄文」パネル	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	1
20070613	福島市教育委員会	「ふくしまの歴史 ダイジェスト版」	南相馬市大船迫 A 遺跡出土土師器写真	1
20070708	古代の博多展実行委員会	平成19年度特別展図録「古代の博多—鴻臚館とその時代—」	弩復元品写真	1
20070708	財団法人郡山市文化・学び振興公社	文化財企画展「探してみよう!川辺のむかし」パネル	郡山市正直 A 遺跡全景写真ほか	29
20070720	福島県立博物館	企画展図録「樹と竹—列島の文化 北から南から—」	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器写真	2
20070729	いわき市立美術館	企画展図録「天冠埴輪、中田装飾横穴…古墳時代のいわき」	中田横穴出土馬具復元品写真	1
20070808	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	平成19年度企画展示図録「長岡京遷都—桓武と激動の時代—」	弩復元品写真	1
20070809	狭山池博物館	平成19年度特別展図録「国土を拓いた金物たち」	梵鐘復元品・獸脚付容器復元品写真ほか	25
20070810	福井県立歴史博物館	特別展図録「古代のテクノロジー—継体大王の時代の最新技術—」	白河市沢内古墳群出土馬具復元品写真	1
20070904	栃木県立なす風土記の丘資料館	企画展図録「川でつながる縄文人」	石川町七郎内 C 遺跡出土琥珀玉写真ほか	76
20070904	財団法人郡山市文化・学び振興公社	「清水台遺跡ガイドブック」	まほろん野外展示「奈良時代の家」・「奈良時代の倉庫」写真ほか	4
20070927	株式会社至文堂	「日本の美術498号 縄文土器 後期」	本宮市高木遺跡出土縄文土器写真ほか	5
20071003	株式会社至文堂	「日本の美術499号 縄文土器 晩期」	飯館村宮内 B 遺跡出土縄文土器写真ほか	13

第3章 平成19年度の事業の概要

20071003	いわき古代史研究会	「いわきの古代の風 第2号」	南相馬市大船迫A遺跡15号製鉄炉写真ほか	8
20071003	福島市教育委員会	「ふくしまの歴史 ダイジェスト版」	弥生時代の石器復元品写真ほか	3
20071003	小学館クリエイティブ	「一冊でわかる イラストでわかる 図解古代史」	「縄文時代の食卓」写真ほか	3
20071016	能代市	「能代市史 通史編 第1巻(考古・古代・中世)」	弩復元品写真	1
20071023	会津美里町教育委員会	「油田遺跡発掘調査成果展」パネル	まほろん野外展示「縄文時代の家」・「奈良時代の家」写真	2
20071023	福島市教育委員会	「ふくしまの歴史 ダイジェスト版」	弓を射る白河軍団兵士の復元模型写真ほか	2
20071023	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	写真パネル	多賀城へ向かう白河軍団兵士の復元模型写真	1
20071023	福井県立歴史博物館	特別展「古代のテクノロジー～継体大王の時代の最新技術～」パネル	古墳時代の馬復元品写真	1
20071026	国東市歴史体験学習館	イベント広報チラシ	古墳時代の馬復元品写真	1
20071026	須賀川市教育委員会	中学生用地域読本「わたしたちの須賀川」	須賀川市一斗内遺跡出土土偶写真	1
20071108	白河市歴史民俗資料館	テーマ展「白河の遺跡展」パネル	白河市一里段A遺跡全景写真ほか	2
20071211	小学館	平川南著「全集日本の歴史 第2巻 日本の原像」	玉川村江平遺跡出土木簡写真	1
20071220	株式会社システムサイエンス	食育教材DVD「食の歴史を学ぼう」	「縄文時代の食卓」写真ほか	29
20080110	奥松島縄文村歴史資料館	平成19年度奥松島縄文村講演会資料集「日本人は何を食べてきたか？」	「昭和40年代の食卓」写真ほか	6
20080110	榊葉町歴史資料館	展示模型「ならは町歴史散歩」中世コーナー映像	榊葉町小堀城跡Ⅰ・Ⅱ区全景写真ほか	4
20080110	財団法人郡山市文化・学び振興公社	「郡山市民プラザ広報スペース」展示写真パネル	鋤・鍬・鎌・刀子・手斧復元品写真	5
20080131	三重大学	三重大学における博物館学関連授業の教材・展示資料	弩復元品写真	1
20080131	二宮町	「二宮町史 通史編Ⅰ 古代・中世」	多賀城へ向かう白河軍団兵士の復元模型写真	1
20080215	東北歴史博物館・北海道開拓記念館・新潟県立歴史博物館	展示図録「古代北方世界に生きた人びと」	弓を射る白河軍団兵士の復元模型写真	1
20080215	田村市教育委員会	「田村市の歴史」	田村市仲ノ縄B遺跡出土墨書土器写真ほか	2
20080228	福島県立博物館	まほろん移動展「考古学から探る古代会津」ポスター・パネル・図録	会津若松市駒板新田横穴群19号横穴墓写真ほか	3
20080304	帝国書院	「社会科 中学校の歴史(初訂版) 2008年度 教授用テスト例」	銅鏡復元品写真	1
20080305	とちぎ生涯学習文化財埋蔵文化財センター	「発掘調査成果情報誌 北原遺跡」	「鉄づくり」写真	1
20080326	いわき市教育委員会	パンフレット「史跡 根岸官衙遺跡群」	まほろん野外展示「奈良時代の倉庫」写真	1
20080327	東北歴史博物館・北海道開拓記念館・新潟県立歴史博物館	企画展「古代北方世界に生きた人びと」パネル	弩復元品写真	1
20080329	福島市教育委員会	「福島市の遺跡 1」	福島市孫六橋遺跡出土弥生土器写真ほか	9
20080329	とちぎ生涯学習文化財埋蔵文化財センター	「とちぎの遺跡がわかる!!」	弓を射る白河軍団兵士の復元模型写真ほか	3
			合 計	290

(4) 資料閲覧

遺物・模型

(点)

閲覧日	閲覧者	閲覧目的	資料名	数量
20070503	県外研究者	個人研究の資料調査	石川町源平C遺跡ほか出土縄文土器	1,172
20070503	県内大学院生	修士論文作成に係る資料調査	白河市筑内古墳群ほか出土鉄鍬	40
20070520	(財)郡山市文化・学び振興公社職員	企画展に係る資料調査	郡山市徳定A・B遺跡出土土師器ほか	472
20070601	県内研究者	個人研究の資料調査	国見町下入ノ内遺跡出土土師器	27
20070626	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団職員	調査報告書作成に係る資料調査	西会津町塩喰岩陰遺跡ほか出土縄文土器	1,359
20070626	県外研究者	個人研究の資料調査	郡山市徳定A・B遺跡ほか出土土師器	301
20070627	県外研究者	個人研究の資料調査	本宮市高木遺跡出土土師器	104
20070628	福井県立歴史博物館職員	特別展に係る資料調査	象嵌復元品・古墳時代の馬復元品・農具復元品	13
20070629	津南町教育委員会職員	企画展に係る資料調査	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	8
20070707	県内研究者	個人研究の資料調査	玉川村辰巳城遺跡出土土師器・羽口	23
20070710	県外研究者	個人研究の資料調査	本宮市高木遺跡出土土師器	123
20070719	大阪府立狭山池博物館職員	特別展に係る資料調査	新地町向田A遺跡出土鋳型ほか	20
20070728	県外研究者	土器製作に係る資料調査	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	1
20070825	国士舘大学考古学会	シンポジウム関連資料との比較検討	天栄村山崎遺跡ほか出土土師器	23
20070828	県外大学生	卒業論文作成に係る資料調査	磐梯町法正尻遺跡・会津美里町鹿島遺跡出土縄文土器	19
20070902	県外研究者	個人研究の資料調査	本宮市高木遺跡出土土師器	45
20070912	県外大学院生	博士論文作成に係る資料調査	白河市一里段A遺跡ほか出土旧石器	1,093
20070916	県内研究者	個人研究の資料調査	天栄村桑名邸遺跡ほか出土石製品	13
20071007	県内研究者	個人研究の資料調査	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	1,749
20071023	栃木県立なす風土記の丘資料館	企画展に係る資料調査	会津若松市上吉田遺跡出土墨書土器	7
20071025	福島県文化財保護審議会	出土品の文化財調査	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器・土製品・石製品	354
20071106	(財)山形県埋蔵文化財センター職員	調査報告書作成に係る資料調査	会津若松市一ノ堰B遺跡ほか出土弥生土器	1,464
20071123	芝山縄文土器の会	土器製作に係る資料調査	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	7
20071123	県外研究者	個人研究の資料調査	榊葉町鍛冶屋遺跡ほか出土製塩土器	175
20071201	県外研究者	個人研究の資料調査	相馬市山田A遺跡出土炉壁ほか	47
20071208	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員	調査報告書作成に係る資料調査	まほろん2号炉関連資料	16
20071212	青森県埋蔵文化財調査センター職員	調査報告書作成に係る資料調査	相馬市山田A遺跡出土炉壁ほか	61
20071227	田村市教育委員会職員	市文化財集編集に係る資料調査	田村市仲ノ縄B遺跡出土墨書土器	1
20080109	福島県立博物館職員	企画展に係る資料調査	会津若松市上吉田遺跡出土墨書土器ほか	145
20080213	仙台市富沢遺跡保存館職員	特別展に係る資料調査	弓を射る白河軍団兵士の復元模型ほか	23
20080222	県外研究者	個人研究の資料調査	白河市筑内古墳群出土馬具・鉄製品	35
20080315	県外研究者	個人研究の資料調査	猪苗代町登戸遺跡ほか出土鉄製品	11
			合 計	8,951

その他

(点)

閲覧日	閲覧者	閲覧目的	資料名	数量
20071215	県外研究者	個人研究の資料調査	調査報告書「阿武隈川右岸築堤遺跡発掘調査報告書3」	1
			合 計	1

3 情報発信及び普及事業

(1) ホームページによる情報発信

4月からのアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は43,831件で、月平均3,652件となっている。年度ベースでは、昨年度よりも6,549件減少している。

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,026	231,404
5月	4,551	235,955
6月	4,172	240,127
7月	4,062	244,141
8月	4,072	248,213
9月	3,535	251,748
10月	3,590	255,338
11月	3,331	258,669
12月	3,008	261,677
1月	3,309	264,986
2月	3,132	268,118
3月	3,043	271,161

(2) データベースによる情報提供

1) アクセス数の推移

平成19年度のアクセス数を下表に示した。データベースの年間アクセス数は104,277件、月平均アクセス数は8,689件となっており、合計のアクセス件数は、前年度(40,276件)よりも、約2.5倍に増加している。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
遺跡	3,139	3,311	1,194	1,457	1,734	1,161
遺物	1,174	1,216	758	930	376	1,699
写真	1,351	1,255	346	1,444	927	1,014
文献	520	580	1,122	559	1,094	1,256
合計	6,184	6,362	3,420	4,390	4,131	5,130
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
遺跡	2,888	3,216	3,413	4,157	3,690	2,407
遺物	2,101	1,288	1,120	1,818	1,193	9,244
写真	2,028	2,401	1,635	5,375	1,354	1,945
文献	5,786	4,436	3,229	2,180	3,435	4,321
合計	12,803	11,341	9,397	13,530	9,672	17,917

2) データの入力

平成18年度に遺跡調査部の文化財センター整備担当で作成されたデータ及び当館で作成している「遺物写真データベース」及び「文献データベース」の入力を行った。

新規入力数(テキスト)を別表として示した。合計入力数は、6,105件となっている。遺跡デー

種 類	入力数	累計
遺跡(基本データ)	0	13,706
遺跡(調査台帳)	66	3,671
遺物	4,786	227,330
遺物写真	51	10,954
写真	400	46,617
文献	802	10,391
合計	6,105	312,669

タベースでの5件の減少は、データの見直しを進めたところ、データの重複がみつきり、削除したためである。

(3) 研究紀要

研究紀要目次

ー研究論考ー

- ・平成18年度「文化体験プログラム支援事業ー古代の鉄づくりー」(吉田秀享)
- ・「鉄づくり」イベント産出鉄塊等の分析調査(JFEテクノリサーチ株式会社)
- ・子供たちに学ぶ楽しさをーまほろんでの取り組みと今後の展望ー(田中敏)

(4) まほろん通信

4月15日、7月1日、10月15日、1月15日の4回、5,000部を発行した。概要は以下となっている。

1) まほろん通信 VOL.24 (4月15日発行)

- ・獣脚ろうそくづくりのようす(表紙)
- ・体験学習(古銭づくり、実技講座「まっ茶茶碗をつくろう」)
- ・古代の横笛コンサート(横笛奏者天田透さんらの演奏)
- ・研修だより(専門考古学講座2「考古学の写真」のようす)
- ・昨年度のまほろん(平成18年度の入館者数は過去最多!!)
- ・今年度の行事予定

2) まほろん通信 VOL.25 (7月1日発行)

- ・「まほろん森の塾第7期生」史跡散策会とお泊り会(表紙)
- ・体験学習(竹笛づくり、実技講座「土器作り」)
- ・開館6周年記念行事と夏休み特別体験
- ・まほろん秋のてんじ案内(ふくしまの重要文

化財Ⅴ 古墳時代前期編)

- ・シリーズ復元展示（いわき市中田横穴出土の馬具の復元）
- ・研修のご案内（7～9月の研修）
- ・研修たより（7月～9月文化財研修のご案内）
- ・福島4000年前の美（まほろんボランティア展示）

3）まほろん通信 VOL. 26（10月15日発行）

- ・実技講座「古代の染色にちょうせん」（表紙）
- ・体験学習（史跡見学ツアー）
- ・「ネットでまほろん」試行（福島県立須賀川養護学校医大分校）
- ・まほろんイベント案内（「古代の鉄づくり」製鉄炉操業）
- ・シリーズ復元展示（中田横穴出土馬具の復元2）
- ・研修だより（無形の文化財研修Ⅰ「民俗芸能を後世に伝えるために～念仏踊を通して考える～」）
- ・シリーズ収蔵品紹介3（上本町F遺跡のかわらけ）

4）まほろん通信 VOL. 27（1月15日発行）

- ・本年度のおでかけまほろん（表紙）
- ・製鉄イベント報告その1
- ・餅つき大会報告
- ・まほろん春のてんじ案内（新編陸奥国風土記一巻之六行方郡一）
- ・まほろん研究広場（アングンを考える～その1「コモヅチ」～）
- ・研修だより（縄文時代中期末葉の土器研究）
- ・シリーズ収蔵品紹介4（白岩堀之内遺跡の弥生時代石器）

（5）館長講演会

平成19年度は、「考古学から見た世界の人々」をテーマとして、年に6回の講演会を実施した。内容と参加人数は下記の通りである。

- ・4月28日（土）第1回「世界の自然と人々の暮らし」23人
- ・5月26日（土）第2回「狩と採集、移動する暮らしー移動生活ー」21人
- ・6月23日（土）第3回「村の暮らしー定住



館長講演会のようす

生活1ー」25人

- ・10月27日（土）第4回「色々な村の暮らし方ー定住生活2ー」20人
- ・11月24日（土）第5回「都市の暮らしへの歩みー都市・都城の出現ー」18人
- ・12月22日（土）第6回「都市・都城の暮らしと国ー多民族国家の誕生ー」25人

なお、平成18年度に実施した「考古学からみた日本列島の文化」は、同成社から「市民の考古学④ 考古学でつづる日本史」として出版されている。

（6）文化財講座

この講座は、福島県文化振興事業団に勤務する職員が手がけた担当遺跡を、スライドや出土遺物の実物を使ってわかりやすくお話する講座である。今年度は、事業団の遺跡調査部の職員と、当館職員が1人ずつ担当した。

第1回「私が掘ったあの遺跡ー三春町ー」

日 時 2月16日

講 師 香川慎一文化財主査

参加者 10人

第2回「私が掘ったあの遺跡ー本宮市ー」

日 時 3月15日

講 師 大河原 勉主任学芸員

参加者 13人

4 研修事業

(1) 研修事業実施の概要

平成 19 年度の研修は、入門研修 3 回、基礎研修 2 回、専門研修 6 回、特別研修 9 回を実施した。これらの期日指定の研修以外に、受講者の希望に応じて行う臨時館内研修を 2 回、職員派遣研修を 5 回実施している。平成 19 年度に研修を実施した日数は延べ 36 日、研修の参加者は 380 人である。

(2) 実 績

平成 19 年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。最も参加の多かった市町村等で文化財の保護に携わる職員は、91 人で全体の 26% 占めている。教職員の参加者は 69 人で 20%、文化財関係の市民ボランティアは 111 人で 32% を占め、その他一般人・学生が 77 人で 22% であった。今年度は職員派遣研修における教職員の受講が多いのが特徴である。また、昨年度に引き続き市民ボランティアや一般の人々の受講も多い。

平成 19 年度研修一覧表

区分	研修名	内 容	期間	場所
入門研修	入門考古学講座Ⅰ	考古学の基礎や福島の各時代に関する入門的な研修	6月9日	館内
	入門考古学講座Ⅱ	福島県内の著名な資料を紹介する考古学の入門的な研修	11月18日	館内
	入門考古学講座Ⅲ	福島県各地域の研究史に関する入門的な研修	2月10日	館内
基礎研修	報告書デジタル原稿作成研修	原稿のデジタル化により報告書作成の経費節減と効率化を図る研修	6月28日～29日	須賀川市
	土器復元研修	破片の接合や欠損部分の補修など土器の修復を学ぶ研修	10月20日～21日	館内
専門研修	専門考古学講座Ⅰ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	7月21日	館内
	史跡整備研修	史跡整備のための調査・記録・事務手続きの研修	9月7日	会津美里町
	専門考古学講座Ⅱ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	9月22日	館内
	時代別研究研修	時代別の専門的研修	12月15日	館内
	官衙遺跡研究研修	官衙遺跡の特徴と調査の方法	1月19日～20日	館内
	専門考古学講座Ⅲ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	2月2日	館内
特別研修	体験学習支援研修 1	土器づくりの指導者を養成する研修	4月29日	館内
	体験学習支援研修 2	土器の野焼きの方法を学ぶ研修	5月27日	館内
	体験学習支援研修 3	火打ち金を教材とする方法を学ぶ研修	7月7日	須賀川市
	教職員発掘調査体験研修	発掘調査を体験し、学校教育・社会教育に役立てる研修	8月1日～3日	相馬市
	無形の文化財研修Ⅰ	無形の文化財の基礎知識と調査方法概論	8月5日	館内
	博物館学外実習	実習をとおして博物館の実務を学ぶ	9月11日～15日	館内
	無形の文化財研修Ⅱ	県内の民俗芸能について理解を深め、無形の文化財保護に役立てる	10月13日～14日	南会津町
	体験学習支援研修 4	古代の編み布体験を教材とする方法を学ぶ研修	12月22日	館内
	体験学習支援研修 5	土製品作りを教材とする方法を学ぶ研修	2月23日	館内
	市町村職員長期研修	文化財行政担当者としての全般的な知識を学ぶ研修	臨時的	館内
	臨時館内研修	遺物実測など要望に応じ個別に白河館で対応する研修	臨時的	館内
	職員派遣研修	市町村等の要請によって随時、職員を派遣して行う研修	臨時的	館外



入門考古学講座Ⅱのようす

(3) 研修実施状況

1) 入門研修

入門研修は、下表に示したとおり入門考古学講座を 3 回実施した。

入門考古学講座Ⅰは、福島市の刀匠藤安将平氏を講師に迎え「福島の鍛冶史」をテーマに藤安氏が伝統技術から見た鍛冶の歴史を、また当館職員が発掘調査の成果に基づき鍛冶の歴史を講義した。受講者は文化財関係の市民ボランティアの参加がもっとも多かった。入門考古学講座Ⅱは、県内の著名な資料を紹介する「福島の

宝物」である。今回は「まほろん秋のてんじふくしまの重要文化財Ⅴ考古資料：古墳時代前期編」に合わせ、福島県の前期古墳をとりあげ、当館職員が講義と展示解説を行なった。市民ボランティアの人たちが多く受講した。入門考古学講座Ⅱは11月に実施したが、入門考古学講座Ⅲは当館に石川町史編纂室長の小豆畑毅氏を講師にお迎えして、石川町周辺の歴史研究成果を講義していただいた。受講者は高校教員・埋蔵文化財調査事業団職員をはじめ、ボランティアや石川町やその周辺市町村からいらした一般の歴史愛好者達だった。

2) 基礎研修

基礎研修は、発掘調査報告書デジタル原稿作成研修と土器復元研修を実施した。

発掘調査報告書デジタル原稿作成研修は、トレースソフトや編集ソフトを活用して、効率的な報告書作成を行うための研修である。須賀川市中央公民館を会場に2日間行った。文化財調査には不可欠の印刷・編集技術の研修のため、多くの埋蔵文化財行政に携わる市町村教育委員会職員や博物館職員が受講した。土器復元研修はいわき市教育文化事業団理事の松本友之氏を講師に土器の修復を実習する講座で10月に実施した。まほろんで土器修復にご協力いただいているボランティアや市町村の調査機関で出土遺物の整理作業に携わる人達が受講し、縄文土器の複雑な文様を復元する高度な技術を学んだ。

3) 専門研修

専門研修では、専門考古学講座を3回、史跡整備・時代別研究・官衙遺跡研究の各研修を行った。

専門考古学講座Ⅰは、早稲田大学考古学会副会長の馬目順一氏に「古新羅王墓の編年」をテーマに、朝鮮半島の古墓の編年についてわかりやすく講義していただいた。文化財に関わる市町村職員だけでなく、ボランティアや一般の人たちも熱心に受講していた。専門考古学講座Ⅱは、「考古学の写真」をテーマにまほろんの藤本強館長が講演を9月に行った。考古学における写真の役割、大型カメラによる写真撮影の必



専門考古学講座Ⅲのようす

要性について講義したのち、大型カメラの使用方法を実践した。埋蔵文化財に発掘調査に直接携わる人たちや博物館の職員が多く受講した。史跡整備研修は、会津美里町の国指定史跡向羽黒城跡の確認調査や整備状況について、会津美里町教育委員会の梶原圭介氏に講演していただいた。会場は会津美里町ふれあいセンターで、研修には史跡整備に携わっている市町村教育委員会の関係者が熱心に聴講した。時代別研究研修は、縄文時代中期末葉の土器に関する研究成果を当館職員がまほろん所蔵の土器を実見しながら、講義を行った。当日は県内外から多くの考古学研究者や土器の復元や製作に関心を寄せるボランティアが参加した。官衙遺跡研究研修は国立歴史民俗博物館名誉教授の岡田茂弘氏を講師にお迎えし、福島県の官衙遺跡研究の進展について講演していただいた。県内市町村の埋蔵文化財担当者が多く参加した。2月には専門考古学講座Ⅲを実施した。考古学と関連する諸科学の研究成果を専門家に講義していただく研修である。考古学に多く関係している科学は分析科学だが、今回は金属遺物の分析を多く手がけているJFEテクノリサーチの板谷宏氏を講師に迎え、金属遺物の化学分析の方法やその問題点を講義していただいた。市町村教育委員会関係者をはじめ、ボランティアも多く受講した。

4) 特別研修

特別研修は、体験学習支援研修・無形の文化財研修・教職員発掘調査研修・博物館学外実習や、不定期の臨時館内研修・職員派遣研修・市町村職員長期研修の実施を計画した。

体験学習支援研修は、学校や公民館などで行

う体験学習の指導者のために設けた研修だが、今年度は5回実施した。体験学習支援研修1と体験学習支援研修2は、「土器作り」を学校や公民館の体験学習や社会・図工の授業に活用しようとする人々を対象とした研修である。体験学習支援研修1では土器の作り方を学び、体験学習支援研修2では土器の割れない焼き方を学ぶ。研修には教員や学生が参加し、当館職員が指導して土器の作り方や焼き方を学んだ。体験学習支援研修3は、須賀川市歴史民俗資料館を会場に「火打ち金」を作る研修を実施した。火打ち金とは、木片に埋め込んだ鉄板と玉髓などのガラス質の石を打ち合わせることでできる火花で火をおこす発火法である。この火打ち金は、理科の授業などの教材として使用することができる。受講者は身近な素材で火打ち金を製作し、持ち帰った。体験学習支援研修4は、古代の布編みを学校の授業や公民館活動に応用しようとする人のための研修である。教員や学生が研修に参加し、布の歴史や考古資料に見られる編み物の痕跡を学び、カラムシを材料にアンギン台を使って布編みを体験した。体験学習支援研修5は、まほろんに収蔵している土偶や土製の耳飾などの縄文時代の土製品をお手本にして、土製品の製作方法を学ぶ研修である。土製品の製作は小中学校の社会や図工・美術の授業に役立てることができる。七輪で炭をおこし、その熱で土製品を焼く簡易な焼成方法も学んだ。教員・博物館職員・ボランティア・学生など多様な職種の人たちが受講した。講師は当館職員が努めた。教職員発掘調査体験研修は、学校の夏休み期間に実施される、主に学校教員を対象とした研修である。福島県文化振興事業団遺跡調査グループが発掘調査を担当している相馬市荻平遺跡を研修場所を選び、発掘調査体験を3日間行った。受講者は教職員や「遺跡の案内人」ボランティアで、発掘調査の実務を体験することによって、考古学の知識を深めた。

無形の文化財研修Ⅰは、地域に伝わる無形の文化財を実見して、無形の文化財への関心を高めることを目的とした研修である。今回は、福島県文化財保護審議委員の懸田弘訓氏に講師をお願いし、白河市周辺に伝わる「念仏踊り」とおして民俗芸能の伝承に関する問題点やより

良い伝承方法を学んだ。この研修には民俗芸能を継承しようとしている保存会の人たちが多く参加した。無形の文化財Ⅱは南会津町の南会津地方歴史民俗資料館を会場に福島県民俗学会共催のもと、「民俗技術の調査と保存」をテーマに研修を実施した。南会津地方歴史民俗資料館の澤田けい子氏、福島県立博物館の佐々木長生氏、福島県文化振興事業団遺跡調査グループの大山孝正氏が民俗技術の調査状況について講義を行った。このほかの特別研修としては、博物館学外実習を希望する学生を受け入れている。今年度は5名の学生がまほろんで行っている業務を体験し、博物館の実務を実習した。

臨時館内研修は、要望がなく実施しなかった。職員派遣研修は、郡山市根小屋小学校や白河市五箇小学校などで、教員や父母教師会などが主催する研修会で体験学習に関する講演を当館職員が行った。5回の派遣研修を行い、82名の人たちが受講した。

(4) 今後の課題

実績の項でも触れたように、今年度は教職員の研修参加が昨年度より増加している。これは学校や父母教師会・教育研究会などで主催する研修会にまほろん職員が派遣された例が多かったためである。このことは教職員にまほろんが周知されてきていることを物語っている。今後も各地域の教育研究会やPTA連合会にまほろん研修を働きかけて行きたい。専門研修には各市町村の文化財担当職員が多く受講されているが、受講者のニーズを調査しながら、魅力ある研修テーマを今後も考えて行く必要がある。無形の文化財研修に関しては、民俗芸能文化財を伝承しようとする県内の民俗芸能保存会の人たちとのつながりを作って行くことも必要かと考える。

5 体験学習事業

平成19年度に実施した体験学習プログラムとその実績は、以下の通りである。

(1) 常時体験型

1) 個人対応メニュー

体験活動室において、個人を対象とした体験学習メニューである。常時体験できる「勾玉・管玉づくり」の他に2週間ごとにもう1メニューを加えて複数メニューで実施した。

本年度から新たなメニューとして加えたものは、「獣脚ロウソクづくり」と「勾袋」である。「獣脚ロウソクづくり」は、実技講座で前年度実施したものを活動室メニューにできるようアレンジし実施した。また勾袋は、正倉院宝物に残されているお香を参考に、それにできる限り近づけるように工夫して実施した。

内 容	参加者数	内 容	参加者数
勾玉づくり	2,515人	火おこし	1,446人
管玉づくり	148人	土器(土製品)	51人
琥珀勾玉	1人	土器拓本	109人
ガラス玉	828人	時代衣装	447人
七夕飾り	218人	勾袋	65人
獣脚ロウソク	131人	塗り絵	54人
昔の遊び(双六など)	109人	弓矢・やり投げ	1,434人
竹笛づくり	39人	石臼できなこ挽き	464人
毬杖	59人	バックヤード・ツアー	492人
うぐいす笛	60人		

体験活動室等の活動実施状況

個人対応メニューでは、当館の主力メニューである「勾玉づくり」の体験者数が、200名ほど減少した。またもう一つの主力メニューである「火おこし」の体験者数は、長期連休や夏休みに特別体験として実施した結果、昨年度は倍増したが、本年度も好評で、さらに300名ほど増加した。

2) 臨時個人対応メニュー

長期連休やイベント日、小・中学校の夏期休業中に体験活動室のメニューとは別に、期間や日数を限定して実施した個人対応メニューである。実施したメニューは長期連休やイ

ベント日に「石臼できな粉を挽く」、夏期休業中に「弓矢・やり投げ」「バックヤード・ツアー」「火おこし」である。特に「弓矢・やり投げ」は親子に大好評で、体験者数も前年度を大幅に上回った。中にはその体験をするためにわざわざ首都圏から足を運ぶ来館者もあったほどである。

3) 団体対応メニュー

事前に予約された団体への体験学習メニューである。利用団体の状況(養護学校・特別支援学級や障害者・高齢者団体等)で、普段のメニューが困難な場合、臨時に「ガラス玉づくり」や「時代衣装を着てみよう」を団体として実施した。冬期間限定のメニューとして、昨年度から「毬杖」を加えたが、昨年度とほぼ同数を確保したにとどまり、伸びは見られなかった。実際にやってみると楽しい遊びであり、もっとその楽しさをアピールし、広めていく努力が必要である。

団体対応メニューの体験者数は、「土器さわり」が過去最高の実績を示した昨年度の4,542名をさらに1,000名ほど超え、5,552名に達した。またアンギン編みについては、前年度の0名から44名に増加した。体験者数の集計(複数体験者を含める)では、昨年度と比べ、個人では539名、団体では1,176名の体験者数が増加した。来館者数に対する割合は個人で25.3%(昨年度は23.6%)、一方団体では39.7%(36.0%)と、昨年度と比較して、さらに体験学習の比率が高まっている。これは全国的な傾向でもあり、展示物だけで人に足を運んでもらうことには限界があると考ええる。今後もこの傾向は強まるものと考ええる。当館もこれらの要望に応えるため、これまでのメニューを検討・改善するとともに、さらに新メニューの開発にも力を入れていきたい。

活動室計	10,930人	活動室比率	31.9%
団体計	12,978人	団体比率	37.9%
体験者合計	23,908人	体験者比率	69.8%
来館者数	34,235人		

体験者数内訳合計と来館者数の比率

(2) 募集型体験メニュー

1) 実技講座

主として考古資料から昔の技術に触れることを目的として行っている。定員は各講座の内容にあわせ、10～20名とし先着順とした。

今年度は、月1～数回程度の17講座21回を開講した。募集締切日を設け受講者の募集を開始し、年間を通して8割前後の人数が集まった。

継続して実施している「古代の染色にちょうせん」「まっ茶茶碗をつくろう」などは、募集締切日前に定員に達するなど、大好評であった。

また、「カラムシから布をつくろう」「埴輪づくり」「古代のガラス技術にふれよう」「和鏡づくり」なども人気の講座である。昨年度、受講者の集まりが鈍る傾向にあった「土器づくり上級編」「土笛・土鈴づくり」についても、ほぼ定員に達していた。

実技講座については、古代の技術や知恵を楽しく学んでもらえるように、技術的な向上と新たな講座の開設を目指し、創意・工夫をしたい。

	内 容	実施日	人数
1	竹笛づくり	4月28日	16名
2	土器づくり	5月19日	11名
3	土器の野焼き	6月16日	4名
4	石庖丁づくり	6月30日	7名
5	カラムシから布をつくろう①	7月7日	10名
6	カラムシから布をつくろう②	7月21日	12名
7	土器づくり	7月28日	10名
8	土笛づくり	8月4日	19名
9	古代の染色にちょうせん	8月11日	24名
10	土器・土笛の野焼き	8月25日	15名
11	カラムシから布をつくろう③	9月1日	9名
12	埴輪づくり	10月20日	14名
13	埴輪を焼く	11月17日	21名
14	古代のガラス技術にふれよう	11月24日	14名
15	凧づくり	12月1日	19名
16	土器づくり上級編①	1月19・20日	8名
17	土器づくり上級編②	1月26・27日	8名
18	まっ茶茶碗をつくろう①	2月9日	13名
19	まっ茶茶碗をつくろう②	2月16日	13名
20	和鏡づくり	3月1日	13名
21	土器の野焼き上級編	3月8日	35名

実技講座実施状況



実技講座「古代の染色にちょうせん」

2) イベント

①昔話を聞こう

団体ボランティア「しらかわ語りの会」と当館ボランティアの協力を得て「こどもの日」に実施した。

②史跡見学ツアー

今回は、県中地域の古墳めぐりを行った。郡山市蒲ノ倉古墳群・本宮市天王壇古墳などを見学した。

③まほろんを描こう（自由参加）

昨年度に引き続き実施したイベントである。子供から大人の方まで自由にまほろんを描いてもらい、数週間館内に掲示した。作品はエントランスに展示し、来館者の投票によって優秀作品を決定し表彰をした。

④ボランティアイベント／餅つき大会（自由参加）

今年度は、ボランティアイベントと餅つき大会を合同で行った。餅つき大会は、横杵と弥生時代の復元品の縦杵を使って臼で餅をついた。



まほろんイベント「まほろんを描こう」

また、「しらかわ和太鼓クラブ」の皆さんによる勇壮な和太鼓の演奏も行った。

ボランティアイベントでは、館内で当館ボランティアによる「土器づくり」「土器の修復・復元」「昔話」などが行われ、ボランティアイベントと餅つき大会いずれも大好評であった。

⑤双六大会

古代からの盤双六で、まほろんカップ争奪戦を行った。

⑥雛祭り

新たに今年度実施したイベントである。つるし雛を作ったり、雛祭りの歴史の話や只見川流域の流し雛のビデオを見たり、盛りだくさんの内容であった。また、参加者に雛あられと桃の花をプレゼントした。

⑦毬杖大会

中世まで盛んに行われていた子どもの遊びを、まほろん独自のルールを設けて行った。6チームが参加して、決勝戦は延長戦になるほど白熱した大会となった。

3) まほろん森の塾

年間を通して、いにしえの人々の知恵や技術を体験する連続講座である。小学5年生以上を対象として塾生を募集した。今年度は9回実施した。昨年度に引き続き、古代米づくりを中心に田植えから収穫までの間、収穫時に使用する弥生時代の穂積具「石庖丁」づくりやカラムシ



まほろん森の塾の田植え作業

から糸をつくる体験などに挑戦した。

また、春のお泊まり会では、塾生に地域の歴史を身近に感じてもらうため、まほろん周辺の遺跡の見学なども行った。

古代米づくりの活動成果は、活動終了後に常設展「みんなの研究ひろば」に展示した。

(3) 館外体験学習支援事業

本事業は通称「おでかけまほろん」と呼ばれ、当館職員が学校や公民館等の教育機関に出向き、体験学習の支援を行うものである。当館が開館した平成13年度から実施されている。

平成19年度は、前期（4月～7月）に9校、中期（9月～11月）に9校、後期（12月）に1校1館の計19校、1館で実施した。

実施月については、4～5月、9～10月に

	団 体 名	学年・科目	体 験 内 容	実施日	人数
1	郡山市立多田野小学校	6 学年 社会	縄文時代の道具に触れる 火おこし体験	4月13日	30名
2	玉川村立玉川第一小学校	6 学年 社会	縄文時代の道具に触れる 江平遺跡についての話 火おこし体験	4月17日	38名
3	南相馬市立鹿島小学校	6 学年 社会	学校周辺の遺跡を知る 火おこし体験 弓矢体験	4月20日	39名
4	猪苗代町立千里小学校	6 学年 社会	縄文時代の道具に触れる 火おこし体験	4月25日	30名
5	郡山市立行徳小学校	6 学年 社会	縄文時代の道具に触れる 火おこし体験	4月27日	65名
6	郡山市立御代田小学校	6 学年 社会	縄文時代の道具に触れる 勾玉作り 火おこし体験	5月16日	23名
7	伊達市立泉原小学校	5・6 学年 社会 総合学習	縄文時代の道具に触れる 勾玉作り 火おこし体験	5月23日	12名
8	県立聾学校福島分校	幼少部・小学部	縄文・弥生・古墳時代の道具に触れる 勾玉作り 火おこし体験	6月12日	11名
9	矢祭町立下関河内小学校	5・6 学年 総合学習	土器作り	6月19日	18名
10	伊達市立堰本小学校	5・6 学年 総合学習	弓矢体験 毬杖体験 縄文・弥生時代の道具に触れる 火おこし体験	9月4日	93名
11	喜多方市立岩月小学校	6 学年 社会	縄文時代の道具に触れる 火おこし体験	9月6日	31名
12	川俣町立川俣小学校	6 学年 社会	勾玉作り 火おこし体験	9月7日	47名
13	二本松市立針道小学校	6 学年 社会	学校周辺の遺跡について 縄文時代などの道具に触れる 火おこし体験 弓矢体験	9月11日	17名
14	郡山市立永盛小学校	6 学年 総合学習	縄文時代の道具に触れる 勾玉作り 火おこし体験	9月13日	43名
15	田村市立関本小学校	6 学年 社会	縄文時代などの道具に触れる 勾玉作り	9月21日	15名
16	いわき市立草野小学校	6 学年 社会	縄文時代などの道具に触れる 弓矢体験 火おこし体験	10月4日	66名
17	郡山市立小山田小学校	6 学年 社会	縄文時代の道具に触れる 火おこし体験	10月12日	112名
18	いわき市立久之浜第二小学校	6 学年 社会	学校周辺の遺跡について 縄文時代などの道具に触れる 勾玉作り	11月6日	10名
19	浪江町立津島小学校	1～6 学年 歴史体験	火おこし体験 弓矢体験	12月7日	60名
20	会津若松市北会津公民館	幼稚園～6 学年 こどもクラブ	昔の道具に触れる 勾玉作り 火おこし	12月27日	17名

平成18年度おでかけまほろん実施状況



おでかけまほろんいわき市久之浜第二小
集中し、全体の3/4を占める。

参加者数は777名で、前年度より減少しているが、これは募集校数の減数ではなく、今年度は小規模校での応募が多かったためである。

地域別にみると、会津地方が3箇所、中通り地方が13箇所、浜通り地方が4箇所、前年度と同様に中通り地方の学校が半数以上を占めている。

利用形態では、6年生の社会科の授業として利用する例が多かったが、今年度は公民館活動の一環として、「火おこし」などの古代技術体験や「土器さわり」を通して参加児童に地域の歴史を身近に学んでもらう目的で利用する施設もあった。今後、公民館施設などの「おでかけまほろん」の利用の増加も考えられるため、これらの施設に対しては、夏休みや冬休みの期間で対応していきたい。

体験内容では、従来からの「土器さわり」「火おこし」「勾玉づくり」「弓矢」に加え、今年度は学校から要望に対応して、「土器づくり」や「蓑杖」なども行った。

今年度の「おでかけまほろん」の形態を見ると、昨年度同様に当館職員が体験活動を進めていく「まほろんコース」がほとんどであった。今後は、学校との打ち合わせの中で地域の身近な遺跡を題材にした授業の進め方や古代の人々の知恵や技術を活用した授業について、先生と話し合いながら、本事業の趣旨に最も近い先生が主体となって授業を進めるなかで、当館職員が専門的な事柄を解説する「連携コース」をできるだけ多くの学校で実施したい。

(4) ネット授業試行

福島県教育センターが中心となっているF K S（ふくしま教育総合ネットワーク）が提供しているビデオ会議システムを使って、2回のネット授業を試行した。

① 実施方法

事務室のネットワーク接続部からLANケーブルをエントランス前まで延長し、そこにノートパソコンを設置した。それにUSBカメラとヘッドセットを接続し、映像と音声を送信した。

② 1回目

実施日 平成19年9月20日

実施校 福島県立須賀川養護学校医大分校

参加人数 8名

内容 当館の職員が縄文時代の衣装を着て、火おこしの歴史やその方法について説明し、医大分校の教員がそれに基づいて実演を行った。福島県立医大の校舎の中の中庭で、舞いギリを使った火おこしを実施し、それに成功した。

③ 2回目

実施日 平成19年11月9日

実施校 福島県立郡山養護学校

参加人数 12名

内容 当館に来館する前の事前学習として実施した。縄文時代と古代の衣装を着た職員が、まほろんの概要について説明し、あらかじめ撮影してあった写真画像を使って、さらに詳しく説明した。また、説明後に生徒からの質問の時間を取り、それについても回答した。



ネット授業の試行（9月20日）

6 まほろんイベント古代の鉄づくり

(1) 経緯

当館では平成15年度から2年に1回、砂鉄から鉄を作るイベント「古代の鉄づくり」を実施している。いずれも、南相馬市原町区大船迫A遺跡15号製鉄炉（平安時代）をモデルにして炉を構築し、平成15年度はモデルの半分サイズの製鉄炉、平成17年度は原寸大の製鉄炉でそれぞれ鉬を生成している。

平成19年度は、平成17年度に引き続き原寸大の製鉄炉を構築するが、当時の工人が作ったであろう銑鉄の生成を目標とし、イベントとして、「砂鉄選別」・「羽口づくり」・「製鉄炉操業」を実施した。

(2) 砂鉄選別

生成鉄の性質は、原料砂鉄の性質や操業方法の違いに左右される。当時の生成鉄に少しでも近付くには、遺跡付近の砂鉄を採取することが必須と考え、平成18年度中に南相馬市の海岸において砂鉄を含む土砂を採取していた。

7月14日よりこの土砂を使用して砂鉄選別



砂鉄洗い体験

を実施した。まほろんにおける砂鉄選別は、傾斜を付けた簡易の樋に水を流し、そこに砂鉄を含む土砂を入れて来館者に上流でもみ洗いしてもらい、比重の差により砂鉄と砂に選別するものである。比重の差により、重い砂鉄は上流に残存し、軽い砂は下流に流れるという原理だ。

しかし、南相馬市の海岸の砂鉄は粒子が非常に細かく、水流に乗って下流に流れてしまい、選別が難しいことを実感した。また、簡易製鉄

炉による実験では投入した浜砂鉄が巻き上げられて扱いづらいことも分かり、製鉄炉操業で使用する砂鉄の変更を余儀なくされた。

そこで、8月21日からは白河市大信の隈戸川より採取した粗粒の土砂を水流に入れ、砂鉄選別を実施した。

イベントとして実施した7月14～16日には延べ111人が体験し、翌日から9月24日までは延べ1,737人が体験した。

(3) 羽口づくり

製鉄炉の操業の際に、炉内温度を上昇させるために強制送風を行う。ふいごからの風を炉内に送る役目を担うのが土製の羽口で、炉壁に装着される羽口と木呂に使用される羽口がある。

羽口は太さ3cm、長さ20cmの心棒に粘土を巻き付けて整形し、心棒を抜いた後に一方をラップ状に広げ、他方はすばませる。

9月29・30日に実施したイベントでは、延べ28人が体験し、76本の羽口を製作した。また、9月19日から10月20日までの間に先述の2日間のほかに当館職員が7日間実施し、177本の羽口を製作した。



羽口づくり

(4) 製鉄炉操業準備

「砂鉄選別」で採取した砂鉄は、天日乾燥後、もち米で作った糊に混合して型に入れて再度乾燥させ、煎餅状に固めた。煎餅状に固めた理由は、炉内での落下速度を遅くするためである。

「羽口づくり」で製作した羽口は、日陰で乾燥後、電気窯で焼成した。

炉（まほろん3号炉）は粘土ブロックを積み上げて構築するが、下釜・中釜・上釜の3段階



製鉄炉づくり

に分けて構築した。下釜下部には羽口を片側18本ずつ装着し、約40cmの高さまで積み上げた後、薪を燃やして強制乾燥した。さらにその上に粘土ブロックを約40cmの高さまで積み上げては、薪を燃やして強制乾燥する作業を2回繰り返した。なお、羽口の装着角度は 12° とした。

規模は、外寸で長さ255cm、幅90cm、高さ120cm、炉壁の厚さは炉底部で40cm、炉頂部で9cmである。

この他、踏みふいごと風箱を設置し、踏みふいごと風箱は塩ビ管で連結し、風箱と炉壁装着羽口は木呂羽口で連結した。

(5) 製鉄炉操業

11月2日の午前中に炉内に火入れを行い、木炭を投入して炉内温度を徐々に上昇させ、午後1時45分、来館者による踏みふいご送風を開始。3時14分、砂鉄（初種）を投入し、操業を開始。この後、約25分間隔で砂鉄と木炭を投入する。操業開始から約4時間30分後、炉



鉄づくり



ふいご踏み

内に溜まったノロを炉外に流し出す作業（ノロ出し）を行うが、ノロは流れ出さず、その後のノロ出し作業においてもノロは粘性が強いままであった。そこで、踏みふいごの踏み数を増やして炉内温度を上昇させると共に貝殻を砕いた粉を投入してノロを柔らかくする方策を採った。これが効を奏し、操業開始から12時間15分後の3日午前3時34分に初めてノロが流れ出した。

その後は順調に推移したが、3日午前6時過ぎには炎の勢いがなくなり、送風を機械送風に切り替えた。炎の勢いは元に戻ったが、送風孔が詰まる傾向にあり、昼前には再び炎の勢いがなくなりだし、ついに午後4時2分、送風を停止した。この間に投入した砂鉄の量は306kg、木炭は674kgである。

翌4日には炉の解体を来館者に公開し、炉内から生成鉄を約51kg採取した。生成鉄は当初目指した銑鉄であった。なお、この3日間の踏みふいご体験者は延べ146人である。



出来上がった鉄のかたまり

7 常設展事業

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「象徴展示」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」
(パネル展示)

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」
サブコーナー〈話題の遺跡〉
- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧「しらかわ歴史名場面」
- ⑨映像展示
「ふくしまの文化財ーいのちのかたちー」

(2) 展示替え

平成19年度に行った展示替えは下記の表の通りである。今年度は「みんなの研究ひろば」の内容が充実しており、そのうちのいくつかについて報告する。また、今年度から常設展示検討チームが立ち上がり、常設展示の問題点を整理し、展示替え等の項目を挙げて改善策を検討した。

①みんなの研究広場

◇「古代の鉄づくり」特別体験プログラム報告

平成18年度には特別体験プログラムとして、工程ごとに参加者を募って古代の鉄づくり体験を実施した。その成果報告として、平成19年度に展示を行ったものである。中でも、当館での製鉄炉実験で取り出した鉄塊を原料とし、古代の鍛冶体験で参加者が製作した刀



みんなの研究ひろば

子の実物展示には、来館者の多くの方々の関心を得たようである。

◇ 弓矢づくりに挑戦！！

「弓矢づくりに挑戦！！」は、郡山市在住の相馬翔伍くん（当時小学4年生）が夏休みに当館で実施した弓矢体験に参加し、その経験をもとに製作した弓と矢2本、弓矢づくりのまとめを展示したものである。弓、矢については当館職員およびボランティアの指導を受けながら熱心に製作し、その製作工程を丁寧にまとめている。

②常設展示検討チームによる改善点

◇ クイズ福島歴史発見のリニューアル

◇ 解説シート台の設置

当館の展示では、来館者に‘物’を見て考えてもらうことを目的に、解説パネルやキャプションを極力省いた展示手法を採っている。そのため来館者には説明不足となっていることも否めない。そこで来館者の一助となるよう、展示資料にテーマを設けた解説シートを作成し解説



泉崎横穴の展示

シート台を設置することを計画し、平成20年度の実施に向けて準備を進めた。

◇ 常設展示替えの計画案の作成

年度ごとに担当者で実施されてきた展示替えであるが、当館の特別展や他の行事と関連を持たせての中・長期の計画案が必要であるとの認識から次年度から4年分の計画案を作成した。

(3) 展示資料の破損とメンテナンス

常設展示室は来館者の接触が原因となる破損のほか、開館7年を経過して各所に経年変化による不具合が生じ始めている。下記にそのうちの数点について報告する。

◆ めぐみの森

植物造形物のうち、クマザサ約20点が折損していた。すべて来館者の接触によるものであり、極端に茎の丈が短くなるものも目立った。

そこで茎を全交換する必要があるものを中心に後方へ移植し、なるたけ来館者の導線部分に被らないよう配慮した。

◆ 暮らしのうつりかわり

各時代のブースでは、経年変化により展示造形物の床・壁・柱などの木材に収縮がおり、木材間に隙間やひび割れが生じ始めている。現段階では部材の交換等を行わず、隙間部分を充填、彩色等で補修して経過観察を行うこととした。また、ブースに敷かれた筵のうち、弥生時代の1枚分を再製作して差し替えた。

平成19年度の常設展造形・造作物のメンテナンスはノムラテクノ(株)に委託して実施した。また、まほろんボランティアに実物資料の一部復元をお願いした。

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
平成18年1月18日 ～平成20年1月31日	二瓶花淑さんの研究 「炎のひみつ」	「炎のひみつ」研究ファイル 研究ファイルの写し まいぎりの試作品	1 1 1	二瓶花淑さん
平成19年4月28日 ～平成20年3月31日	平成18年度須賀川市立 長沼東小学校第6学年 「古代へタイムスリップ」	「炎のひみつ」研究ファイル 研究ファイルの写し	1 1	長沼東小学校 第6学年の皆さん
平成19年4月5日 ～平成20年1月15日	「古代の鉄づくり」 特別体験プログラム報告	解説パネル 体験プログラムでできた木炭 体験プログラムで選別した砂鉄 体験プログラムで使った鉄 体験プログラムで見本とした刀子 体験プログラムでできた刀子 体験プログラムでできた木簡	3 — — — 1 18 4	館蔵
平成19年1月16日 ～	まほろんイベント 「古代の鉄づくり」報告	解説パネル 使用した砂鉄・木炭・粘土・羽口の資料 作業後の炉壁・炉底の資料 作業で生じたノロの資料 取り出した銑鉄の資料	3 — — — —	館蔵
平成19年1月16日 ～	弓矢づくりに挑戦！！	解説パネル 弓矢づくりを体験してのまとめ 弓矢の試作品	1 2 1	館蔵
平成20年2月1日～	石包丁づくり	解説パネル 活動記録ファイル 古代米の資料 石包丁の製作工程の試作品 石包丁の試作品	2 1 4 6 4	館蔵

「みんなの研究ひろば」展示替え資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
平成18年11月17日～	泉崎横穴	解説パネル	6	館蔵
平成19年3月28日～	まほろんから見える遺跡 「芳野遺跡」	解説パネル	6	館蔵

「話題の遺跡コーナー」・「しらかわ歴史名場面」展示替え資料一覧

を、鎮守森古墳は土師器壺をそれぞれ展示した。県指定の史跡杵ガ森古墳は土師器の壺や器台を展示した。また、このコーナーの東隣壁面に県内の前期古墳の類例を写真パネルなどで紹介した。国指定史跡の南相馬市桜井古墳や県指定史跡の大玉村傾城壇古墳・いわき市玉山古墳・浪江町本屋敷古墳群などである。展示室の北東隅にはビデオコーナーを設置し、会津大塚山古墳の発掘調査の記録を上映した。

なお、具体的な展示資料の内訳については、下表に記した。

3) 関連行事

関連行事としては以下の研修を実施した。

入門考古学講座Ⅱ（11月18日）「福島県の宝物」

大安場古墳の発掘調査にかつて参加した当館職員が、主体部発見の様子や、調査の苦労などについて講演し、さらに展示解説も行なった。

4) 成果と反省

本企画展期間中の入館者総数は6,166人、開催期間中の一日平均入館者数は約124人で、概ね例年と同様の入館者数である。ポスター等の印刷の不手際から、広報が行き届かなかった。今後は早めの広報を心がけたい。

遺 跡 名	資 料 名 称	点数	市町村	指定種別	所 有 者	保 管 先
会津大塚山古墳 (南棺)	仿製三角縁唐草文帯三神二獣鏡	1	会津若松市	国指定重文	会津若松市教育委員会	福島県立博物館
	変形四獣鏡	1				
	管玉	79				
	勾玉	1				
	ガラス玉	53				
	算盤玉・堅櫛・刀子	各2				
	三葉環頭大刀	1				
	鉄剣	5				
	銅鏃	8				
	鉄鏃	17				
	鉄槍・鉈・有袋鉄斧	各1				
	砥石・石杵	各1				
会津大塚山古墳 (北棺)	捩文鏡	1	会津若松市	国指定重文	会津若松市教育委員会	福島県立博物館
	紡錘車形石製品	1				
	管玉	40				
	銅鏃	4				
	鉄鏃	13				
大安場1号墳	車輪石	1	郡山市	県指定重文	郡山市教育委員会	郡山市文化財調査研究センター
	大刀・剣・鎗	各1				
	短冊形鉄斧・鉄鎌	各1				
	底部穿孔壺	1				
田村山古墳	内行花文鏡	2	会津若松市	県指定重文	会津若松市北会津町田村山区	福島県立博物館
	鉄製品	5				
	管玉	3				
	ガラス小玉	10				
森北1号墳	放射状区画珠文鏡	1	会津坂下町	県指定重文	会津坂下町教育委員会	会津坂下町教育委員会埋蔵文化財整理室
	管玉・鉈	各2				
	鉄槍・土師器壺	各1				
亀ヶ森古墳	埴輪	6	会津坂下町		会津坂下町教育委員会	会津坂下町教育委員会埋蔵文化財整理室
鎮守森古墳	底部穿孔土師器壺	1	会津坂下町		会津坂下町教育委員会	会津坂下町教育委員会埋蔵文化財整理室
杵ガ森古墳	土師器壺	1	会津坂下町		会津坂下町教育委員会	会津坂下町教育委員会埋蔵文化財整理室
	土師器器台	1				

秋のてんじ資料一覧表

(2) まほろん春のてんじ

「新編陸奥国風土記一卷之六 行方郡一」

会期:平成20年3月15日(土)～5月11日(日)
51日間

1) 趣旨

まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記」は、館内に収蔵されている資料を通して当時の陸奥国の姿を復元し、新たな風土記の世界を紹介するものである。今回は、浜通り地方北部の行方郡(なめかたのこおり、現在の南相馬市及び飯館村付近)を対象とした。

当該地域については、真野ダム関連、請戸川農業用水関連、原町火力発電所建設に係る多くの発掘資料が館内に収蔵されている。館内収蔵の資料を通して、この地方を西から東へ流れて太平洋に注ぐ「真野川」沿いに住んだ各時代の人々の足跡をたどる。

2) 展示の構成と内容

プロローグ

展示遺跡の位置を示す地図・年表と共に飯館



春のてんじポスター



展示のようす (縄文時代)

村日向南遺跡出土の土偶が見学者をお出迎え。

①人々が住み始めたころ (旧石器時代)

真野川上流域の飯館村松ヶ平A遺跡の他、南相馬市小高区荻原遺跡の旧石器を展示した。

②中・上流域に花開いた縄文文化 (縄文時代)

真野ダム関連遺跡から見つかったいろいろな形態の竪穴住居跡・建物跡をパネルで紹介すると共に、多彩な縄文土器を展示し、狩猟の道具の石器や土錘、祈りやお祭りの際に使われた土偶・石製品なども展示した。

③下流域の稲作文化 (弥生時代)

当時の石器が多く見つまっている南相馬市南入A遺跡・長瀬遺跡の資料を展示した。

④華麗な装飾品を持った豪族の時代

(古墳時代)

当館収蔵資料の中に南相馬地方の当期の資料が乏しいことから、福島県立博物館より真野古墳群出土の金銅製双魚佩と土師器を借用し、当館収蔵の金銅製双魚佩復元品と並列展示した。



展示解説のようす

⑤陸奥国を支えた一大生産基地
(飛鳥～平安時代)

金沢地区製鉄遺跡群を中心にコーナーを展開し、「遺跡群の概要と生産の始まり」・「製鉄炉の変遷」・「燃料を生産する木炭窯」・「製鉄を管理・掌握するための施設」・「製鉄に関わった役人のお墓」・「木炭窯で行われた祭祀」・「もう一つのコンビナート（大迫遺跡）」の小コーナーを設けた。製鉄関連資料に偏ることなく、そこに関わった人々の使用した土器類を中心に展示した。

⑥幕藩体制下の鉄づくり（中近世）

真野川流域からは少々離れるが、同じ郡内の南相馬市五台山B遺跡及び羽山B遺跡の羽口や鉄塊を展示した。

エピソード

当館における鉄づくりの工程を紹介する「まほろん製鉄双六」コーナーを設置した。壁面には操業の様子の写真パネルを掲示し、床を製鉄

の工程を示した双六盤としてゲーム感覚で鉄づくりの工程を理解できるようにした。

3) 成果と反省

本企画展はのべ51日間開催され、期間中の入館者総数は5,691人、一日平均112人の入館者であった。本企画展を展示の対象地域の一人でも多くの人々に観覧してもらいたく、相双地区北部の郷土史研究会や史談会等に案内を発送したところ、3団体が来館され展示観覧された。

本企画展では一本の河川に焦点を絞り、その流域の歴史を出土資料から見てみようとしたが、当館で所蔵している資料の中で一流域の資料がこれほどまでに充実している例が他にないことを実感した。

なお、「まほろん製鉄双六」コーナーに関しては、展示スペースと隣接することからミスマッチであったことが否めない。

遺跡名	資料名	点数
萩原遺跡	ナイフ形石器	2
	石刃・削器	各1
松ヶ平A遺跡	ナイフ形石器・石刃	各2
稲荷塚B遺跡	石刃	1
岩下A遺跡	石刃・石剣	各1
上ノ台A遺跡	深鉢形土器	1
上ノ台D遺跡	打製石斧	3
羽白C遺跡	香炉形土器・注口土器	各1
	台付鉢形土器	1
	土偶	11
	耳栓	3
	土版	2
	土錘	6
	石鏃	11
	石錐・石剣	各4
	石匙	7
	けつ状耳飾	1
	磨製石斧	3
羽白D遺跡	深鉢形土器	1
日向南遺跡	香炉形土器	4
	深鉢形土器・土版	各1
	土偶	5
	石剣	2
松ヶ平A遺跡	けつ状耳飾	1
	磨石・石皿	各1

遺跡名	資料名	点数
松ヶ平B遺跡	けつ状耳飾	1
松ヶ平D遺跡	香炉形土器	1
長瀨遺跡	太型蛤刃石斧	1
	石庖丁	2
南入A遺跡	石庖丁	5
	太型蛤刃石斧	2
	扁平片刃石斧	3
	ノミ形石斧・打製石斧	各2
真野古墳群	土師器	3
	金銅製双魚佩	2
	金銅製双魚佩(復元)	1
鳥打沢A遺跡	須恵器	7
鳥井沢B遺跡	羽口	4
	炉壁・炉底塊	各1
長瀨遺跡	土師器	2
	流出滓	1
大船迫A遺跡	土師器	18
	須恵器	2
大迫遺跡	土師器・須恵器	各2
	羽口	1
羽山B遺跡	羽口	3
	鉄塊	4
五台山B遺跡	羽口	2
	工具付着滓	4
	総点数	166

春のてんじ遺物一覧表

（3）研究復元事業

1）研究復元の目的

研究復元事業は、遺跡から出土した遺物や確認できた遺構を対象とし、古代の技術や素材をできる限り検討し、今に甦らせるものである。

これまでに、横穴墓から出土した種々の副葬品（馬具・武具・容器等）や古墳出土の青銅鏡・大刀飾り、奈良時代の弩・横笛、平安時代の鋳鉄製品の復元を行い、平成17年度からは「金工史から見た古代石背・石城国設立の謎」をテーマとして、いわき市中田横穴出土馬具類を復元製作している。

この研究復元では、開館時に復元した白河市策内37号横穴墓から出土した馬具類との比較検討を行い、福島県古墳時代金工技術の地域差から、その社会背景に迫り、さらには古代の石背・石城国の設立の謎を解明することを目的とする。

2）研究復元の計画

対象とした資料は、いわき市中田横穴出土の馬具類であり、これらを以下のような年次計画で復元する。

平成17年度：金銅装木製鞍と尻繫関連

平成18年度：金銅装鐙（三角錐形壺鐙）の内、木胎部

平成19年度：金銅装鐙（三角錐形壺鐙）の金属部製作及び完成

平成20年度：障泥

3）平成19年度の経過

平成19年度は金銅装鐙の金属部及び付随する製品を製作し、金銅装鐙の完成を目指した。また、金銅装鐙に関する打ち合わせを1回、次年度以降に製作する資料を含めた資料に関する調査及び検討会を5回実施した。以下に、これらの概要を記す。

4月19・20日：障泥金銅装金具他の調査（於：いわき市考古資料館）

5月11・12日：鐙金属部及び革帯の飾り金具、鐙先端の鉸具の選択の打ち合わせ（於：いわき市考古資料館）

11月30日・12月1日：かすがい・花卉状金具の調査（於：いわき市考古資料館）

12月4・5日：かすがい・花卉状金具のX線撮影（於：福島県立博物館）

2月25～27日：障泥金銅装金具・金銅装馬鈴の調査（於：いわき市考古資料館）

3月18・19日：金銅装鐙完成品の最終確認と障泥金銅装金具・金銅装馬鈴の検討（於：いわき市考古資料館）



打ち合わせのようす（5月11日）



X線撮影のようす（12月5日）

4）復元した資料

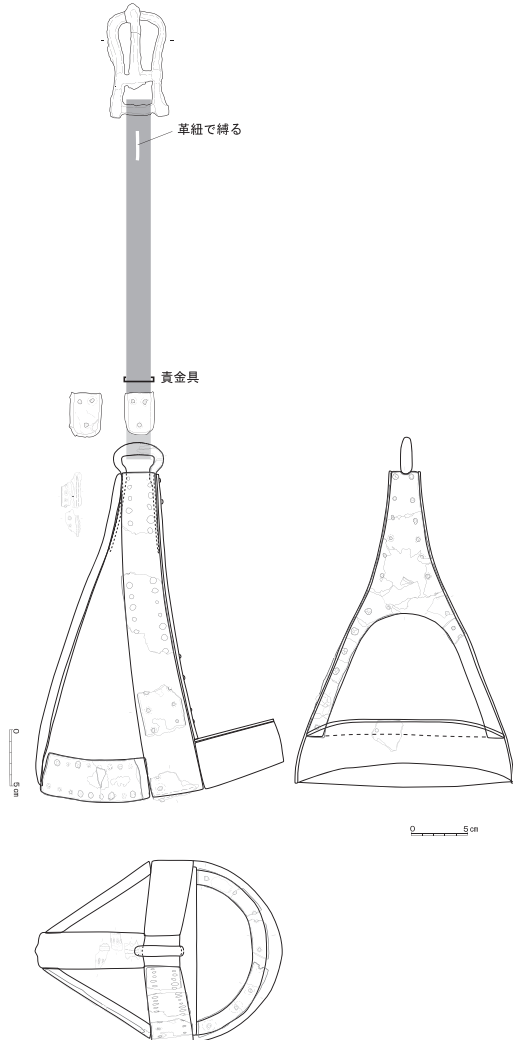
鐙を構成する資料は発掘調査時にバラバラになって出土した。このため、これらの組み合わせについては、奈良県牧野古墳出土壺鐙を参考にし、木胎部の樹種は群馬県綿貫観音山古墳出土の鉄装琵琶型木製壺鐙同様の桂材とした。

昨年度、木胎部を製作したが、度重なる検討の結果、一般的な鐙とは形状が異なり、鐙先端が三角形で、側面が直線的になり、さらにつま先が上がる形状であるとした。

木胎部は、成形後に生漆に松煙（松ヤニのス）を混ぜたものを塗り込み、仕上げた。

今年度はこれに金銅板（鉄地金銅張）を被せ、

鞍から吊す飾り金具付き革帯や鐙先端の鉸具を製作して鐙の完成とした。なお、今回製作した鐙では多くの鉸が必要であり、この鉸製作に時間を要した。鐙本体の重量は2.3 kgである。



鐙設計図（年報 2007 より）



鉸製作のようす



製作途中の鉸



完成した一对の金銅製鐙



鞍に設置した金銅製鐙

5) 今後の予定

平成 20 年度は障泥を製作する予定である。それ以降に関しては不確定であるが、面繫や胸繫・馬鈴の製作が挙げられる。

9 ボランティア運営事業

(1) 登録

1) まほろんボランティア

当館に登録するボランティアの名称を『まほろんボランティア』といい、登録形態によって「個人登録ボランティア」と「団体登録ボランティア」とに分かれる。団体登録ボランティアは『しらかわ語りの会』(10名)の登録があり、イベント等での館活動にご協力いただいた。

一方、個人登録ボランティアの登録状況は別表のとおりである。登録希望者は規定の研修修了後、既存の登録者は更新手続き後、4月1日付けで登録が行われる。なお、特に断りがない場合、以下に挙げるボランティア活動の記述は、個人登録ボランティアに関連してのものである。

平成19年度登録者数	44人(男性23人 女性21人)
平成19年度登録最年少年齢	18歳
平成19年度登録最年長年齢	80歳
平成19年度登録者平均年齢	57歳(男性58歳 女性57歳)
平成20年度新規登録希望者数	1人

平成19年度まほろんボランティア登録状況

2) まほろんサポーターMets(メッツ)

まほろんサポーターMets(メッツ)の活動内容は、まほろんボランティアの活動が館の運営方針に則った自主的なものであるのに対し、職員やまほろんボランティアの指示によりそれらの館活動の補助を行うものである。

平成19年度登録者数	12人
平成19年度登録者平均年齢	23歳
平成19年度新規登録者数	4人

平成19年度まほろんサポーターMets登録状況

(2) 活動内容

1) 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 体験学習(実技講座・団体等)の支援
- イベント(鉄づくり等)の支援

- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理

2) 自主活動グループとしての活動

上記の活動の他に、いくつかの自主活動グループが形成され、グループごとに企画・運営・自主研修が行われている。自主活動グループは以下のとおりである。

- まほろんオリエンテーリング
- 植物観察ツアー
- 見どころ案内ツアー
- 土器づくりグループ
- アンギン編みグループ
- 収蔵資料の修復・復元グループ
- イベントグループ

3) まほろんボランティアの会の運営

平成17年度より個人登録ボランティアで構成する『まほろんボランティアの会』を発足し、埋蔵文化財の愛護と普及、会員の資質向上と相互交流を目的に自主的な組織による運営が行われている。

(3) 受け入れ体制

当館のボランティア活動は、ボランティア3原則のもと、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸グループに正・副2名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。

(4) ボランティア研修

前年度からまほろんボランティアの研修要項を整備し、実際のボランティア活動や館の運営方針を反映させた内容で実施した。研修内容は以下のとおりである。

1) 一般研修

一般研修とは、新規ボランティアが館内活動を適正かつ円滑に行うために実施する研修である。登録希望者に対して、事前に屋内展示室お

よび野外展示施設の基本的な解説、体験学習メニューの基本的な技能の習得を目的に、全7回12単位の研修項目を実施した。

2) 専門研修

専門研修とは、館内展示解説及び体験学習活動指導などに関連する専門的な内容とし、既に当館で活動するボランティアで受講希望者に実施する研修である。当館の研修事業の内容を絡めながら、特別展示の展示解説など12項目を実施した。

3) 館外研修

館外研修は、上記のものとは別にボランティアの自主研修の支援として、館外施設の視察などボランティア育成事業の一環として実施するものである。平成19年度は、ミュージアムパーク茨城県自然博物館を訪れ、ボランティアによる自主研修活動、ふれあい野外ガイドを見学し、ボランティア活動の先進地での様々な取り組みについて知り得る格好の機会となった。



館外研修「茨城県自然博物館」にて

(5) ボランティアの自主活動

1) ボランティア展示

自主活動グループの「収蔵資料の修復・復元グループ」の方々が中心となり、継続して修復作業を行ってきた法正厩遺跡の資料を展示し、グループ活動の紹介とともにこれまでの成果の発表を行った。

まほろんボランティア展示「福島4000年前の美」

開催期間：平成19年7月14日～9月2日



ボランティア展示を観覧する親子

2) ボランティアイベント

今年度のボランティアイベントは、開催日を例年の開館記念日に合わせたものから大きく変更し、まほろんイベント「餅つき大会」と同日開催として実施した。イベントの内容も、通常ボランティア活動を紹介することに主眼を置き、来館者の方々にボランティア活動への理解や関心を高めてもらうことを目的とした。当日は多数の方々が来館し、終日大盛況であった。

「まほろん祭り ボランティア2007」

開催日時：平成19年12月9日(日)10:00～14:30



ボランティアイベントでようす

第4章 平成19年度入館者統計

1 入館者数

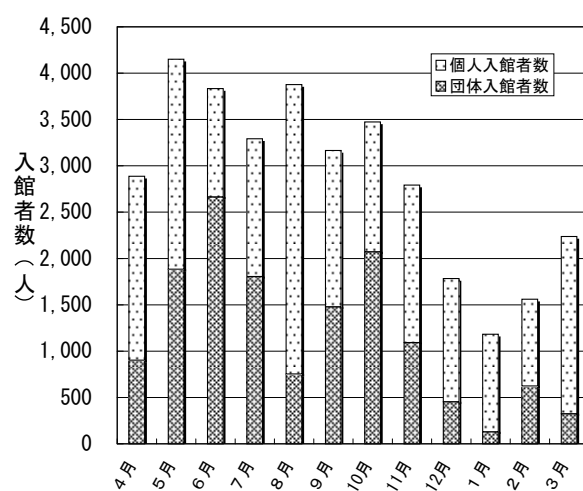
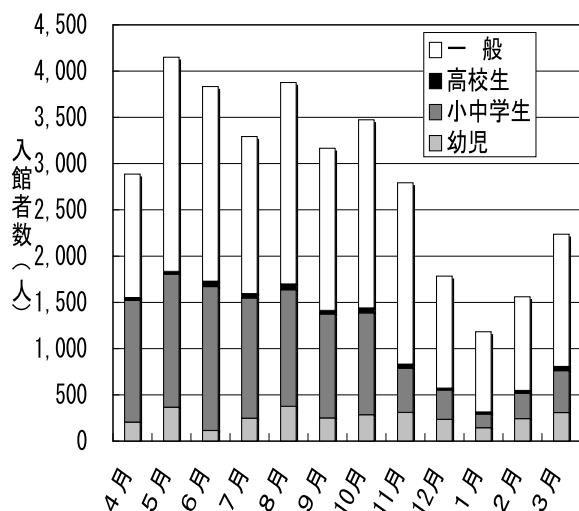
月別入館者数

	開館日数	幼児	小中学生	高校生	一 般	入館者合計	月別構成比	日平均
4月	26	204	1,317	30	1,336	2,887	8.43	111
5月	27	366	1,438	29	2,317	4,150	12.12	154
6月	26	114	1,555	58	2,106	3,833	11.20	147
7月	28	247	1,300	46	1,699	3,292	9.62	118
8月	30	375	1,260	63	2,179	3,877	11.32	129
9月	26	250	1,123	39	1,754	3,166	9.25	122
10月	26	285	1,101	53	2,035	3,474	10.15	134
11月	26	309	479	43	1,961	2,792	8.16	107
12月	23	235	316	20	1,212	1,783	5.21	78
1月	23	144	148	22	869	1,183	3.46	51
2月	25	242	275	30	1,014	1,561	4.56	62
3月	25	307	453	46	1,431	2,237	6.53	89
合計	311 日	3,078 人	10,765 人	479 人	19,913 人	34,235 人	100.00 %	110 人

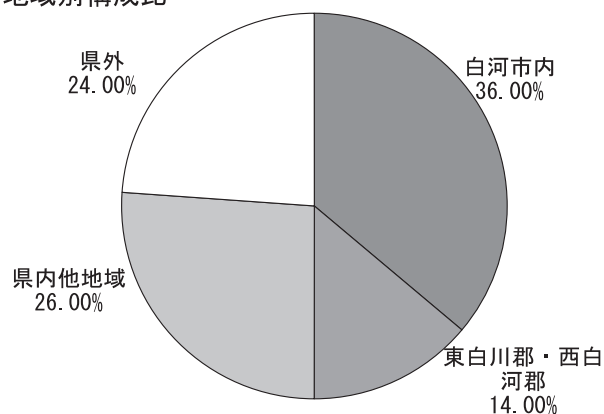
団体利用状況

団 体			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
学校関係	幼稚園・保育園	園数	0	1	0	1	0	0	3	1	0	0	3	1	10
		入館者数	0	140	0	53	0	0	103	98	0	0	127	29	550
	小学校	学校数	12	16	21	10	0	7	13	3	2	0	3	1	88
		入館者数	561	783	1,197	585	0	547	825	114	47	0	128	30	4,817
	中学校	学校数	1	1	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0	7
		入館者数	208	160	0	17	95	0	32	0	0	0	0	0	512
	高等学校	学校数	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4
		入館者数	0	0	30	13	0	22	0	0	0	29	0	0	94
	養護学校	学校数	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
		入館者数	0	0	0	0	0	7	0	24	0	0	0	0	31
	大学	学校数	0	1	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	5
		入館者数	0	11	0	27	63	0	56	0	0	0	0	0	157
	小中高 P T A (保護者のみ)	学校数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
		入館者数	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	45	0	75
小中高 P T A (親子レク等)	学校数	0	0	3	1	3	3	2	3	0	0	1	0	8	
	入館者数	0	0	220	59	125	334	87	171	0	0	48	0	1,044	
生涯学習関係	研究会	会数	0	0	1	3	1	1	2	0	0	0	0	8	
		入館者数	0	0	140	77	33	14	116	0	0	0	0	380	
	子ども会	会数	0	0	0	5	3	0	0	1	0	0	0	1	10
		入館者数	0	0	0	216	93	0	0	20	0	0	0	26	355
	公民館等	館数	0	2	2	1	4	7	5	4	2	0	1	1	29
		入館者数	0	222	48	67	110	140	130	125	50	0	11	34	937
社会福祉関係	福祉施設 デイケアサービス	団体数	0	0	2	1	0	1	1	0	1	0	0	0	6
		入館者数	0	0	37	10	0	21	27	0	20	0	0	0	115
文化団体関係	資料館等	館数	0	0	0	0	1	0	0	3	1	0	0	1	6
		入館者数	0	0	0	0	52	0	0	29	7	0	0	7	95
	歴史研究	団体数	0	0	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	5
		入館者数	0	0	68	0	0	91	0	12	0	0	0	0	171
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数	2	1	2	3	0	3	6	3	0	0	0	1	21
		入館者数	62	75	32	296	0	98	175	30	0	0	0	15	783
その他	その他	団体数	3	21	34	19	7	8	17	20	16	4	10	10	169
		入館者数	70	492	863	384	182	205	521	469	330	101	264	184	4,065
合計	団体数		18	43	69	48	23	34	51	40	22	5	19	16	388
	団体入館者数		901	1,883	2,665	1,804	753	1,479	2,072	1,092	454	130	623	325	14,181
総入館者数			2,887	4,150	3,833	3,292	3,877	3,166	3,474	2,792	1,783	1,183	1,561	2,237	34,235
団体利用者の割合			31.21%	45.37%	69.53%	54.80%	19.42%	46.72%	59.64%	39.11%	25.46%	10.99%	39.91%	14.53%	41.42%

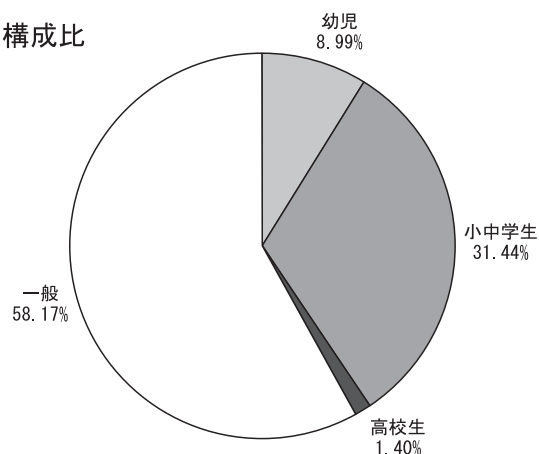
月別入館者構成比率



地域別構成比

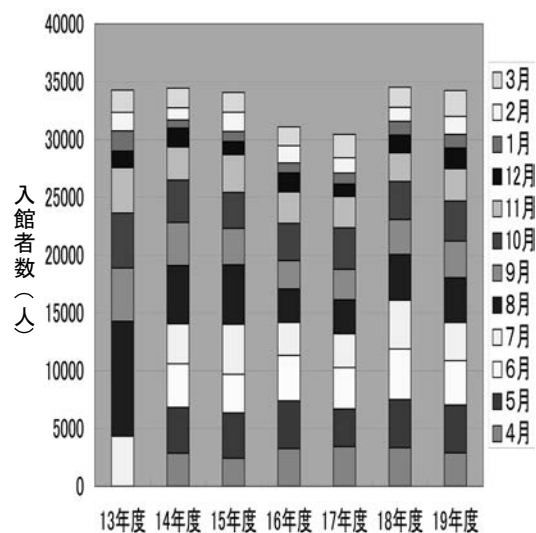


年齢別構成比



2 入館者数の推移

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
4月		2,856	2,426	3,256	3,433	3,337	2,887
5月		3,967	3,926	4,129	3,253	4,169	4,150
6月		3,773	3,330	3,939	3,581	4,370	3,833
7月	4,334	3,455	4,330	2,846	2,929	4,218	3,292
8月	9,932	5,045	5,147	2,900	2,935	3,950	3,877
9月	4,613	3,729	3,150	2,450	2,640	3,022	3,166
10月	4,755	3,661	3,104	3,223	3,594	3,302	3,474
11月	3,933	2,867	3,274	2,717	2,700	2,479	2,792
12月	1,424	1,630	1,128	1,647	1,080	1,527	1,783
1月	1,742	702	867	861	950	1,186	1,183
2月	1,613	1,050	1,670	1,492	1,319	1,228	1,561
3月	1,921	1,712	1,716	1,628	2,032	1,728	2,237
合計	34,267	34,447	34,068	31,088	30,446	34,516	34,235



第5章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

所在地：〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86番地

設置者：福島県

管理機関：財団法人福島県文化振興事業団

開館：平成13年7月15日

○建築

設計：株式会社佐藤総合計画

工事監理：福島県土木部都市局営繕課・株式会社佐藤総合計画

施工

建築工事：佐藤工業株式会社・株式会社兼子組特定建設工事共同企業体

機械設備工事：山田設備工業株式会社

電気設備工事：福島電設株式会社

○展示

設計監理：日精株式会社

屋内展示製作：株式会社乃村工藝社

屋外展示製作：株式会社トリアド工房

1 建築概要

敷地面積：51,827.51㎡

建築面積：本館・収蔵庫棟 5,999.955㎡

体験学習館 133.627㎡

延床面積：本館棟 2,400.046㎡

収蔵庫棟 2,999.769㎡

計 5,399.815㎡

体験学習館 92.71㎡

構造：(本館棟)鉄筋コンクリート造、(収蔵庫棟)鉄骨造、(体験学習館)木造

規模：地上1階(最高高さ10.29m、軒高8.79m、階高4m)

駐車台数：一般駐車場91台(身障者用4台)・大型車駐車場

10台・臨時駐車場40台・職員駐車場21台・駐輪場28台

地域地区：都市計画区域内・無指定

主な外部仕上げ

(本館棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、陸屋根：アスファルト防水コンクリート押さえ、外壁：コンクリート打放し一部はつり仕上げフッ素系シラン塗装、建具：アルミサッシ電解着色、外構：インターロッキングブロック(環境整備工事)

(収蔵庫棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：コンクリート打放しフッ素系シラン塗装・押出し成形セメント板フッ素系シラン塗装、建具：スチール製建具

(体験学習館)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：粒状陶石塗、建具：アルミサッシ電解着色

主な内部仕上げ

(エントランス・プロムナードギャラリー)床：フローリング・花崗岩JB、壁：コンクリート打放しはつり仕上げフッ素系シラン塗装・木練付不燃パネル、天井：木練付不燃パネル

(事務室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(常設展示室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板・一部溶接金網メラニン焼付け二重天井化粧石膏ボード

(特別展示室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(体験活動室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビ

ニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(講堂)床：フローリング、壁：腰壁／ガラスウール吸音材＋集成材染色塗装、上壁／岩綿吸音板、天井：岩綿吸音板

(研修室・実習室)床：ビニルシート、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音

(収蔵庫棟)床：塗り床、壁：木繊維セメント板・セメント成型板、天井：木繊維セメント板

(体験学習館)床：合板張り一部畳敷き、壁：合板オイル拭き、天井：合板オイル拭き

2 設備概要

◎電気設備：受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA

非常照明設備・誘導灯設備：建築基準法に基づいて設置

放送設備：非常放送と兼用、出力240W

電気時計設備・テレビ共同視聴設備・インターホン設備

電話設備：電子交換外線4回線(ISDN)内線55回線

監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停

制御及び計測監視

◎防犯・防災設備

防犯設備：赤外線スペースセンサー・マグネットセンサーを各室に設置し、監視制御システムと併用

ITV設備：ITVを必要箇所に設置し、常設展示室、特別展示室、エントランス・プロムナードギャラリー、搬入口、体験広場の状況を事務室・警備員室で監視

火災報知設備：受信盤P型1級19回線(自火報)4回線(防排煙設備)、煙感知機66箇所、熱感知機107箇所、ガス漏れ検知器6箇所

防災設備：消火／屋内・屋外消火栓、HFCガス消火方式、排煙／自然排煙

防火扉設備：5回線

雷警報設備：襲雷警報器(コロナーム)

避雷針設備

◎空調設備

空調方式：一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式(一部空冷HP)＋静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト(空冷冷専パッケージ＋電気ヒーター＋アルカリ除去フィルターユニット)方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト(ガスエンジンHPP)方式

熱源：都市ガス(ガス種別：プロパン)

◎衛生設備

給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流(最終樋でポンプアップ)方式で下水道本管へ放流、雨水；側溝放流

多目的便所：屋内1箇所(男女別)、屋外1箇所(男女別)、トイレ呼出設備付

◎昇降機設備

荷物用リフター2基：一般収蔵庫(油圧式 最大積載量1,000kg)、搬入口(油圧式 最大積載量1,000kg)

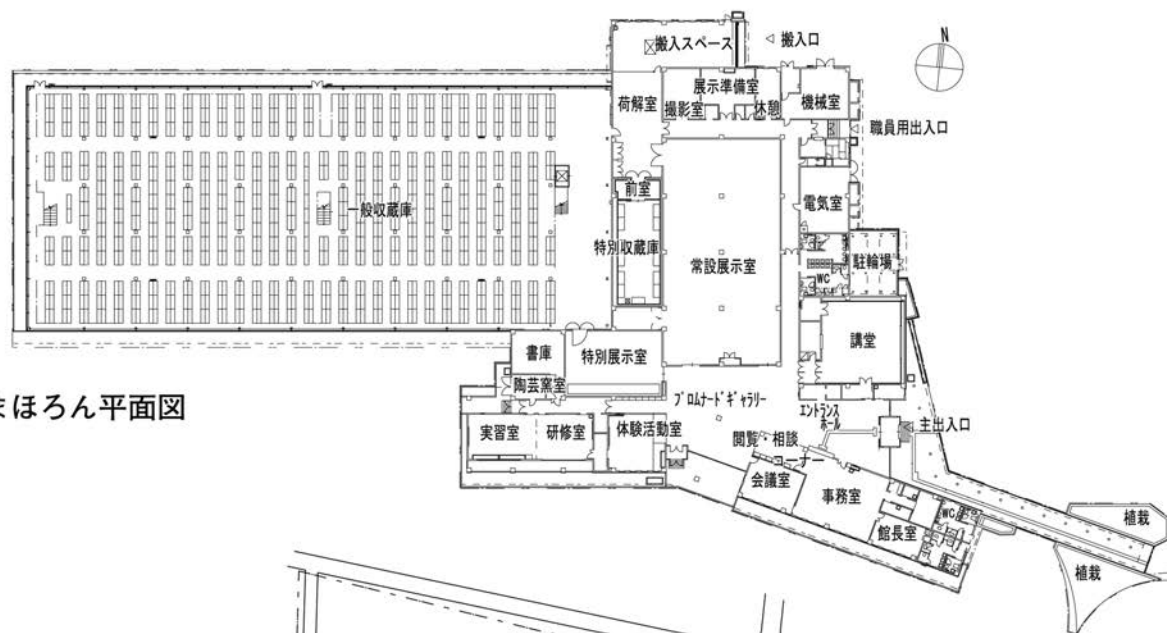
工期 着工平成11年7月12日 完成平成12年10月16日

建築事業費 2,690,848千円

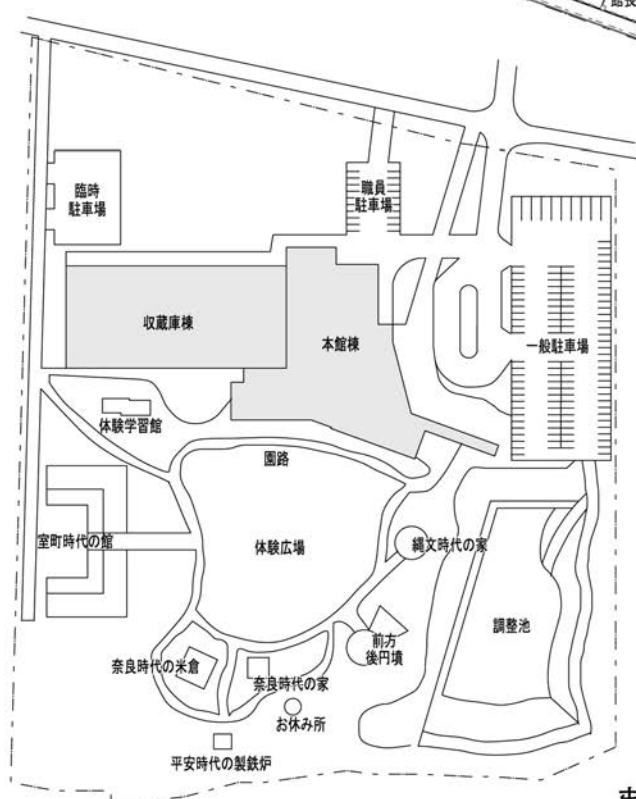
公有財産購入費 222,095千円

その他の経費 387,682千円

合計 3,300,625千円



まほろん平面図



主要諸室面積表 (㎡)

まほろん配置図

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚 2 層目部分 2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16				
救護室	9		体験学習館	93	

第6章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- 一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- 一 第三条各号に掲げる業務に関すること。
- 二 白河館の維持管理に関すること。
- 三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。
- 2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。
- 3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であつて、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わな

いこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 一 前条の規定に違反した者
- 二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

- 1 この条例は、平成十八年四月一日から施行する。
- 2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手續は、この条例の施行の日以前においても行うことができる。

附 則(平成一八条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期的休館日は、次のとおりとする。

- 一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。
- 二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。
- 三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時

までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

（平一七教委規則一六・一部改正）

（文化財等の特別利用）

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

（委任）

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。

（施行の日＝平成一三年七月一五日）

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

まほろんの利用案内

開館時間 ・ 午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

入 館 料 ・ 無料

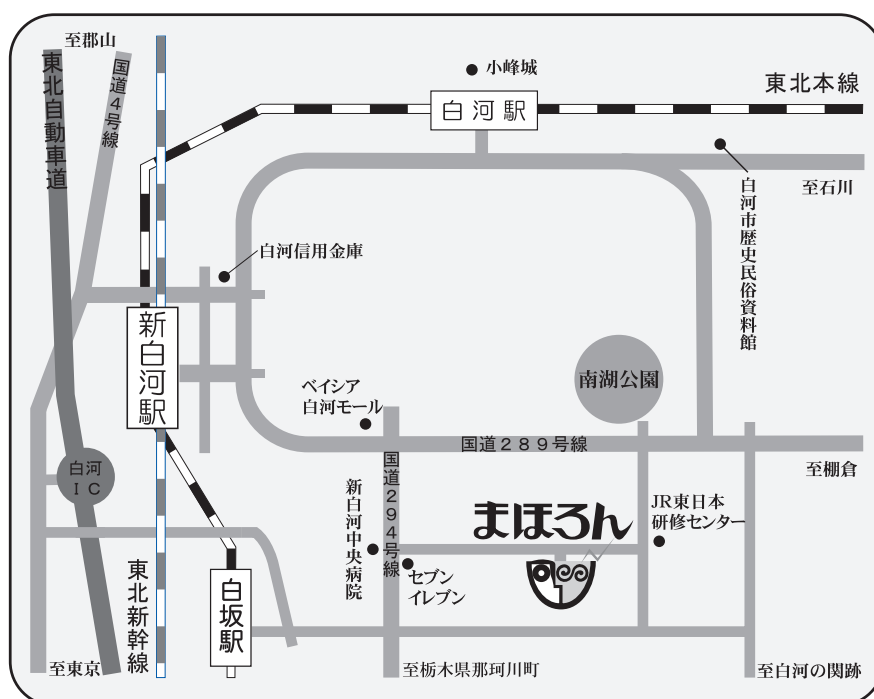
交通案内 ・ JR 東北本線白河駅、JR 東北新

幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅経由白坂、白坂駅行き）まほろんバス停下車

・ JR バス（棚倉行き）南湖公園下車 25 分

・ 東北自動車道白河 I.C. から車で 20 分

そ の 他 ・ 屋内・屋外に多目的トイレを備えています。車いす・ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2008

平成 21 年 2 月 28 日発行

編集 (財) 福島県文化振興事業団

発行 福島県文化財センター白河館

〒 961-0835 白河市白坂一里段 86

TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075

<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>

印刷 (有) 平電子印刷所

表紙デザイン 久家三夫